

令和 2 年 度
第 4 回 鶴岡市地域医療を考える市民委員会

期 日 令和 3 年 3 月 2 5 日 (木)
時 間 午後 1 時 30 分～3 時 30 分
場 所 鶴岡市役所 別棟 2 号館
2 1、2 2、2 3 号会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 説明・報告・協議

(1) 経過説明

「これまでの市民委員会を振り返って」

事務局 鶴岡市 地域包括ケア推進室

(2) 講 話

「鶴岡地区医師会地域医療連携室ほたるの取組について」

鶴岡地区医師会地域医療連携室ほたる 課長 遠藤 貴恵 氏

「からだ館の取組について」

からだ館 齊藤 彩 氏

(3) 協 議

来年度の市民委員会の内容の検討

① 市民アクションプランの体系とアンケート調査について

② 来年度の市民アクションの進め方について

4 そ の 他

5 閉 会

令和2年度 第4回 鶴岡市地域医療を考える市民委員会 名簿

(敬称略)

NO	組織等	役職	氏名	備考
1	からだ館 にこにこ倶楽部		キタカゼ スミ美 北風 寸美	
2	元鶴岡市私立幼稚園・認定こども園連合会保護者会		キムラ ヒロユキ 木村 博之	
3	元鶴岡市立荘内病院 ボランティア		サウ アケミ 佐藤 明美	
4	鶴岡市公立保育園保護者会連絡協議会	会長	サウ カズヒロ 佐藤 和広	
5	株式会社 瀬尾医療連携事務所	代表取締役	セオ リカ 瀬尾 利加子	
6	朝日地域保健委員会	副会長	ツチダ ミコ 土田 三香子	
7	関根いきいき体操講座	代表	ハラダ ヒロシロウ 原田 藤四郎	
8	もみじが丘	施設長	ホンマ ショコ 本間 志保子	
9	山形県看護協会		ホンマ ユウコ 本間 優子	
10	つるおかオレンジサポートの会	代表	マシマ マサヒロ 真島 正博	欠席
11	鶴岡市介護保険事業者連絡協議会 居宅支援事業者部会	幹事	ミズグチ ヒロシ 水口 英俊	

コーディネーター

慶応義塾大学 環境情報学部	教授	アキヤマ ミキ 秋山 美紀	オンライン参加
---------------	----	------------------	---------

オブザーバー

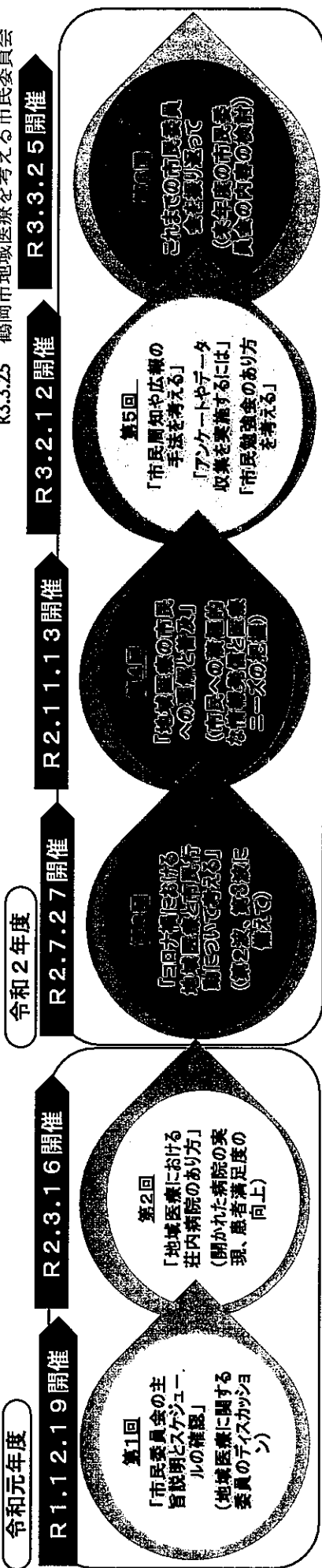
鶴岡地区医師会	会長	フクハラ アキコ 福原 晶子	
鶴岡地区歯科医師会	副会長	ムカエダ ケン 迎田 健	
鶴岡地区薬剤師会	会長	スズキ チハル 鈴木 千晴	
鶴岡市立荘内病院	病院事業管理者	シナ 三科 武	
鶴岡市立荘内病院	院長	スズキ サトシ 鈴木 聡	

鶴岡市	市長	サカワ オサム 皆川 治	
-----	----	-----------------	--

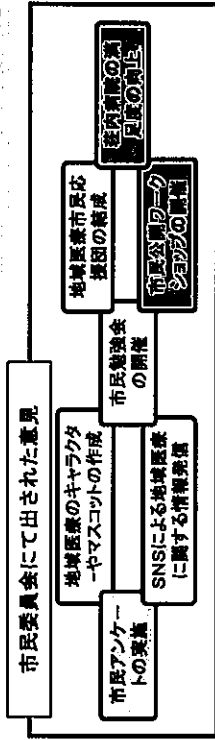
鶴岡市地域医療を考える市民委員会 3カ年スケジュール(案)

資料 1

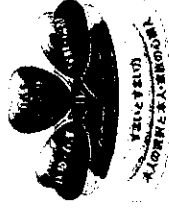
R3.3.25 鶴岡市地域医療を考える市民委員会



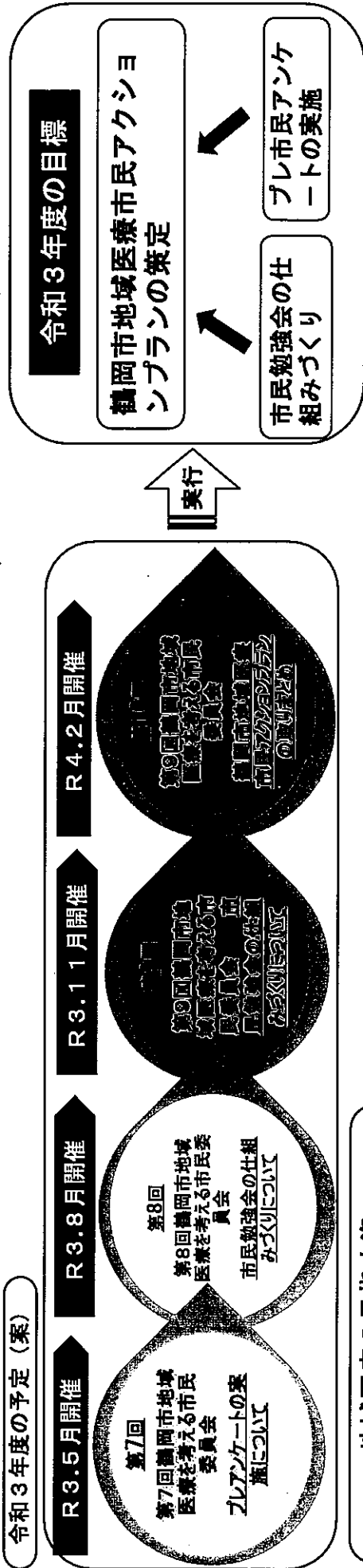
これまでの市民委員会での議論のまとめ



- 市民委員会によるアクション
- ① 地域医療について市民周知や広報の実施(市民勉強会の活用等)
 - ② 地域医療についての市民アンケートの実施
 - ③ 地域医療市民アクションプランの策定



令和3年度の予定(案)



地域医療の目指す姿

- 市民自身が自分の健康を守り、また地域医療を守り、そして医療従事者と、こころ通いあう地域医療を実現する
- ◎ 地域の基幹病院である荘内病院が、急性期病院としての使命を果たし、他の関係機関と連携を図りながら、地域医療を進める

令和2年度 第3回 鶴岡市地域医療を考える市民委員会 (会議概要)

- 日 時 令和3年 2月12日(金) 午後1時30分から3時30分
- 会 場 鶴岡市総合保健福祉センターにこふる 3階 大会議室
- 次 第
 - 1 開 会
 - 2 あいさつ
 - 3 説明・報告・協議
 - (1) 市民アクションプランの体系(案)、アンケート調査項目(案)の説明
事務局 地域包括ケア推進室
 - (2) 協 議
 - ① 地域医療について市民周知や広報の手法を考える
 - ② 地域医療に関するアンケートやデータ収集を実施するには
 - ③ 地域医療市民勉強会のあり方を考える
 - (3) その他 次回、市民委員会のテーマについて
 - 4 その他
 - 5 閉 会
- 出席委員

瀬尾利加子(委員長)、本間志保子(副委員長)、北風寸美、木村博之、佐藤明美、土田三香子、原田藤四郎、本間優子、真島正博、水口英俊
秋山美紀(コーディネーター・オンライン参加)、福原晶子(オブザーバー)、迎田健(オブザーバー)、鈴木千晴(オブザーバー)、三科武(オブザーバー)、鈴木聡(オブザーバー)
- 市側出席職員

健康福祉部長 渡邊健、地域包括ケア推進室長 佐藤清一、地域包括ケア推進室調整専門員 佐藤正、同室調整専門員 帯谷友洋、同室主事 三浦巧、同室保健師 東海林志保、荘内病院事務部長 佐藤光治、同参事(兼)総務課長 今野一夫、同医事課長(兼)地域医療連携室主幹 土田信一、同地域医療連携室室長補佐 富樫 清
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 0人
- 審議事項(テーマ1、2は、グループワーク テーマ3は全体審議)

テーマ1:「地域医療について市民周知や広報の手法を考える」
テーマ2:「地域医療に関するアンケートやデータ収集を実施するには」
テーマ3:「地域医療市民勉強会のあり方を考える」
- 委員発言要旨

テーマ1「地域医療について市民周知や広報の手法を考える」
～ グループワークのまとめ ～

 - ・ 荘内病院や医療機関について広く市民に周知するために、市の広報に定期的に同じスペースに同じテーマで掲載してはどうか、また作成について編集委員を編成してはどうか。
 - ・ 広報の設置場所として、他市の事例にもあるようにスーパーマーケットにも設置し、いつでも市報が見られるような環境づくりも必要である。

- ・年代ごとにかかりやすい病気があるが、20代、30代、40代向けなど年代ごとに周知する必要もあるのではないか。そのためにも市の広報の担当の方と、市民の声も入れることが出来るように、年に何回かこのメンバーが集まって打合せをやってはどうか。
 - ・SNSで若い人向けに鶴岡市のホームページなどにて、荘内病院のことや患者さんの声などいろいろな医療に関する紹介するページがあったらよい。
 - ・私たち市民委員自身も勉強会などをして、医療知識の裾野を広げていきたい。例えば女性センターなどの講座の中で、医療機関の先生の出前講座を聞いたら、認定証を配布し、さらにその認定証を受けた方はその地域で講座の講師役ができることとし、認知症オレンジサポーターのように広がっていく流れを作れたらよい。
 - ・これから実施する地域医療市民アンケートを通して、市民が今何をしたいのか、どんなことを聞きたいのか、などをしっかりくみ取って、それに基づいて広報で発信していく。
- 以上がグループで出された意見。

テーマ2「地域医療に関するアンケートやデータ収集を実施するには」

～ グループワークのまとめ ～

- ・アンケート内容の言葉の一つ一つが市民が理解できない用語となっている。
 - ・何のためのアンケートなのかと明確にする必要があるのではないか。
 - ・手法については、若い世代の人たちの回収率を上げるため、QRコード等を使って周知する。
 - ・外国人の方もアンケートの対象者として良いのではないか。ただ、観点が違う問題を持っているのではないかということもあり、違う方法で外国人の方の対象者を別枠としてアンケートをとってみても良いのではないか。
 - ・アンケート内容について、「満足している点を教えてください」という内容になっており、何が満足しているのか、何を改善してほしいのかを書けるようにし、きちんともっと細かく書いていけるようなアンケート用紙にした方が良い。
 - ・鶴岡市民の中でだいたい何人位対象者を絞れば良いかだが、無作為に抽出してアンケートを取ると2割から3割ぐらいの回収率しかならない。最大この規模であれば2千人ぐらいのデータが集まれば、意見としてまとめることができるのではないか。よって1万人に配布すれば、アンケートとしての精度が高まる。1万人をどのように調査するか、そこが今後の課題となる。
- 以上がグループで出された意見。

コーディネーター：今までこの市民委員会というのは学ぶ段階だったと思う。荘内病院の鈴木聡院長や瀬尾利加子委員長の講演を聞いたり、地域包括ケア推進室や荘内病院より様々なデータというのを出していただき、私も含めて委員の皆さんが基礎知識を得て力を蓄えるという段階だったと思う。いよいよその力を発揮してアクションプランを作る段階に入ったということになる。当初、私もアクションプランはどんなものが想定されているのか、あまり見当がつかなかったが、このように事務局にてたたき台を作ってもらおうと、改めて地域の、そして鶴岡市の地域医療を良くしていくために市民が一丸となって取り組んでいく、そのための大事な道標になるような計画表だと理解が出来た。今日は、このたたき台があったおかげでとても活発に意見が交わされたと思う。わくわくするような意見が出ていたと、発表を聞いて感じたし、私が参加していたグループでも、新しい視点あるいは厳しいけれども建設的な意見というのが数多く出ていた。この市民

アクションプランの市民という言葉には、すべての鶴岡市民、鶴岡に暮らすあらゆる人というのが含まれていると思う。鶴岡に暮らす全ての人というのは委員の皆さんもちろんだが、医療を提供する側の皆さん、病院の職員とか市役所の職員とかもろもろ含まれて、オール鶴岡市民で取り組んでいくのだということも、今日このアクションプランを拝見して感じた。そうした意味で、今日は、いつもオブザーバーとして出席の三科先生や鈴木先生だけではなく、医師会長の福原先生、歯科医師会副会長の迎田先生、薬剤師会長の鈴木先生にもご参加いただけて、議論を聞いていただけて大変良かったと思う。オール鶴岡市民で作って行くものなので、オブザーバーの先生方からもどんどんご意見をいただきながら、せっかくやる広報、アンケートというのが、より良いものに、鶴岡市民みんなにとって良いものになっていくように引き続き皆さんのお知恵、ご支援をいただきながら私も学ばせていただきます。

委員長：最初、思い出すまでみんな時間がかかったが、思い出してしまえば議論が進んで、たくさん意見をいただき委員の皆様にも恵まれたと思って見ていた。細かいところのアクションプランの内容とか体系などは事務局の方と相談しながら提示して行けるようにする。

テーマ3「地域医療市民勉強会のあり方を考える」（全体審議）

委員長：最初に皆さんと一緒に話し合ったときに、「広報」と「データ収集」と「市民の勉強会」の3つに分かれて、この3つが必要だという話になっていた。広報の市民周知のグループのなかで、市民勉強会を活用し市民周知していこうという話題が出ている。

よって、市民勉強会については広報グループで議論するという理解で皆様よろしいか。データ収集の皆様からもご協力いただく部分があるのでよろしく願います。

事務局の皆さん、その考えでよろしいか。

事務局：はい、そのとおり。

(3) その他 次回、市民委員会のテーマについて

委員長：「その他」としまして、次回市民委員会のテーマを委員の皆さんで決めたいと思う。まず初めに事務局から提案があるので、説明を願います。

事務局：次回の市民委員会のテーマは、「これまでの市民委員会を振り返って」～来年度の市民委員会の内容の検討～としたいが、いかがか。

委員長：委員のご意見、こういったものを参考にといったアイデアなどがあればお願いしたい。私から今既に鶴岡の方で設置してある医療情報を提供してくれるツールの紹介とか医師会で見られる医療機関のホームページとか、Net4uといったツールについて学習する時間が今まではなかったと思うので、そのような話を聞く時間も設けたらどうかと思うが、いかがか。

事務局：よろしいと思う。検討する。

委員長：からだ館の方で患者会とかいろいろされていると聞いたので、医師会とからだ館の二本

立てなどできると思うので、ぜひ検討ください。

4. 「その他」

委員：協議をしなければいけない委員会の時には事前に資料をいただけると、よく目を通してこれるので、次回から事前にいただければ大変ありがたい。

事務局：ご意見ありがとうございます。次回から事前に送付するようにする。

事務局からの連絡になりますが、〈市民アクションプラン・アンケート調査への意見〉という用紙を記載いただきまして、2月26日まで地域包括ケア推進室までお送りください。記載いただいた内容を次回委員会までまとめて、また市民アクションプラン等にも反映し、委員の皆様にも再度確認いただきたいと思う。

またグループワークで、お手元に皆様方メモして頂いたが、それについても回収させていただく。もし可能であれば、オブザーバーの皆様も協力いただければありがたい。

5. 閉会

今日お話しすること

1. 地域医療連携室ほたるについて
2. 医療・介護・福祉の地域資源マップについて
3. 医療・介護に関わるICTの仕組みについて



地域医療連携室「ほたる」のこと 聞いたことありますか？

ほたるは、鶴岡地区医師会の中にあります。

地域包括ケアシステムを実現するために、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、療法士、歯科衛生士、栄養士、保健師、ケアマネジャー、介護士、行政など多くの専門職の方々が協働し連携をとる必要があります。そのためには、これらの専門職のそれぞれの活動をサポートし、コーディネートする「拠点」というものが求められています。その「拠点」を担っているのが私たち「地域医療連携室ほたる」です。



私たちの目的と活動

市民の皆さまはもとより、地域で活躍する多くの医療・介護・福祉に関わる専門職の方々と繋がぐことで、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができよう支援することを目的としています。

専門職や市民の皆さまから職種からの相談窓口、地域の医療・介護資源マップの提供、地域の高齢者向けイベントの情報提供、多職種・市民を対象とした研修会や講演会の企画・開催、医療と介護を繋ぐヘルスケア・ソーシャルネットワーク「Net4UJ」の運用支援などなど、沢山の活動を行っています。



鶴岡地区医師会 地域医療連携室ほたるの取組について

鶴岡地区医師会 地域医療連携室ほたる
課長 遠藤 貴恵



ほたるのアクションプラン

課題	現状	目標	行動	担当者	進捗状況
高齢者の生活支援	高齢者の生活支援に関する課題	高齢者の生活支援に関する目標	高齢者の生活支援に関する行動	高齢者の生活支援に関する担当者	高齢者の生活支援に関する進捗状況
高齢者の生活支援	高齢者の生活支援に関する課題	高齢者の生活支援に関する目標	高齢者の生活支援に関する行動	高齢者の生活支援に関する担当者	高齢者の生活支援に関する進捗状況
高齢者の生活支援	高齢者の生活支援に関する課題	高齢者の生活支援に関する目標	高齢者の生活支援に関する行動	高齢者の生活支援に関する担当者	高齢者の生活支援に関する進捗状況

何が出来ていないのか

行動
いつ、何をするか

対策
何をするか(具体的に)

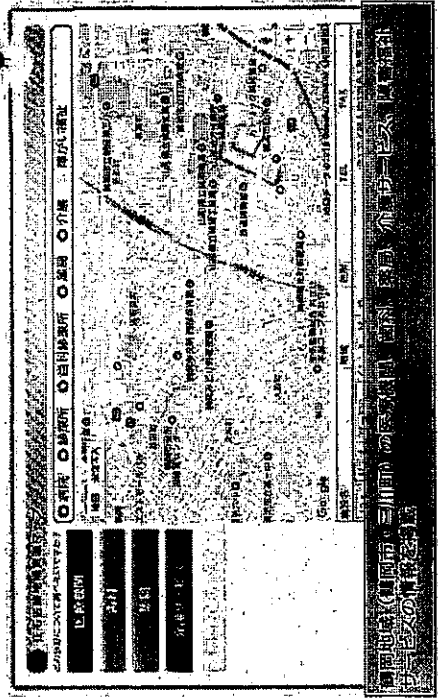
医療・介護・福祉の 地域資源マップについて



鶴岡市の医療・介護・ 福祉サービスの資源状況

- ・病院・診療所 (分院等も含む) : 93
- ・歯科診療所 : 48
- ・薬局 : 65
- ・介護系サービス : 313
(訪問看護、訪問リハ、訪問入浴、包括支援センター、居宅介護支援事業所、特養、老健、グループホーム、有料老人ホーム等)
- ・障がい福祉サービス : 174

在宅医療地域資源マップ



在宅医療地域資源マップ



医療・介護に関わるICTについて

鶴岡市で運用されている医療・介護に関わるICTの仕組みは3つあります



ICTツール

- ① 医療と介護をつなぐヘルスケアソーシャルネットワーク「Net4U」
- ② 患者・家族と医療・介護をつなぐWEB連絡ノート「Note4U」
- ③ 医療情報ネットワーク「ちよつかいネット」

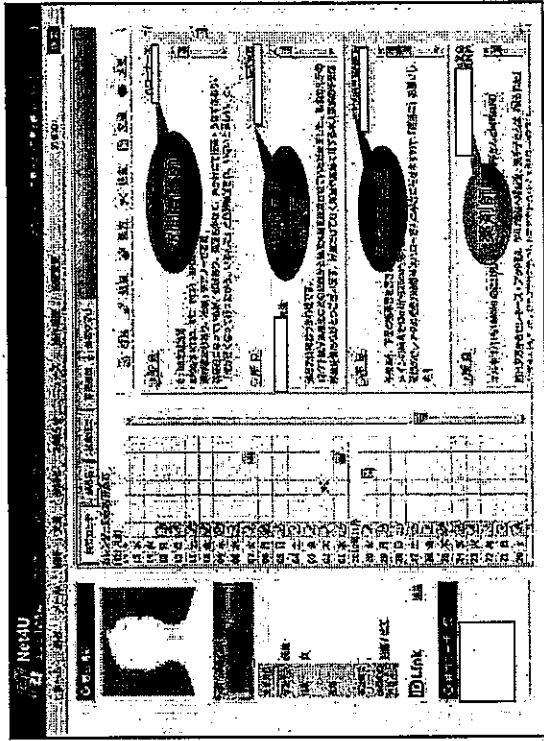
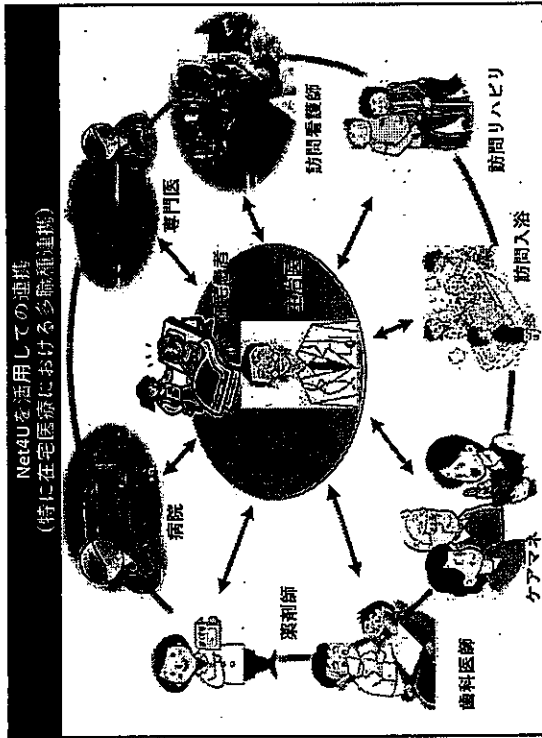


Net4Uとは？



地域内の病院、診療所、訪問看護ステーション、調剤薬局、介護事業所等が患者さんの情報を共有することができる、地域包括ケアに対応したヘルスケア・ソーシャル・ネットワーク・システムです。

施設や職種を問わず、患者さんに関わる全ての医療者・介護者がフラットに情報を共有し、コミュニケーションを可能にすることで、顔の見える地域包括ケアをサポートしています。



Note4Uとは？

- ▶ 患者さんご本人や介護者が利用することができ、医療・介護の提供側とのお互いのやり取りが可能な仕組み

ちようかいネットとは？

- ・医療機関、介護施設等が、インターネット回線を用い個人情報を保護した上で、「ID-Link」という仕組みを使い病院の医療情報（電子カルテ）を共有する仕組みです。処方や、血液検査の結果、レントゲンやCT等の画像情報とレポートなどが異なる医療機関で共有されます。

どんな効果が期待できますか？

- ① 医療連携ネットワークに参加している施設の情報共有が容易であるため、一貫した診療・介護サービスが可能となります。
- ② 離れた場所の処方、検査を初診でどこでも医療費の負担軽減につながります。

- 共有する医療情報
- 診療情報
- 処方情報
- 検査結果
- レントゲンの画像情報
- レポートなど

このほかにも

地域医療連携バス（クリニカルバス）という情報共有ツールもあり、これも一部はICT化で運用されています。

・※クリニカルバスとは、主に入院時に患者さんに手渡される病気を治すうえで必要な治療・検査やケアなどを日付ごとに作成した診療スケジュール表のことです。

大腿骨近位部骨折地域連携バス

脳卒中地域連携バス

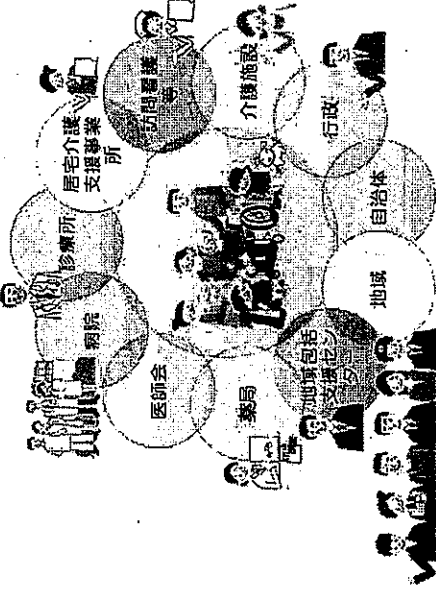
糖尿病地域連携バス

がん地域連携バス（乳・肺・大腸・胃・肝）

急性心筋梗塞地域連携バス

認知症地域連携バス

ほたるの役割＝「繋げる」



＜令和 2 年度第 3 回市民委員会後に市民委員・オブザーバーから出た意見(まとめ)＞

R3. 3. 25 鶴岡市地域医療を考える市民委員会

◆令和 3 年度策定予定鶴岡市地域医療市民アクションプランの体系(案)への意見

- ・前回の市民委員会の席上で見た時は、時間がなく、すぐ読めなかったが、家でゆっくり読むとよくまとまっていると思いました。
- ・「荘内病院の明日を考える会」と一緒に考えるのですか？
- ・体系一覧表がとてもわかりやすくまとめられていると思います。
- ・アンケートのデータや広報の内容など、市民勉強会の内容にも生かせると思いました。
- ・プラン体系の(案)は大変結構だと思います。その計画をいかに肉付けして行くか。
(例)
 1. 年代に関係なく興味を引く内容。認知症・うつ病・発達障害に関する講話
 2. 年代毎の病気ランキングと対策。
 3. 病気をしたけれど克服した事例報告。
 4. 市民勉強会参加者にエンディングノートを差し上げる。
 5. 開業医さんの科目毎の数、介護施設の数 市民は知りたいのでは
- ・資料 1 への意見ではありませんが、新聞折込の“敬天愛人” 2 月に、庄内からの提言で庄内の医療について書いてありました。このように、いろいろなメディアにより荘内 HP に対するイメージが鶴岡市民にすりこまれているように感じます。我々が学んできた様な正しい発信をしていくことが大事だと思います。
- ・目指す姿「こころ通い合う地域医療の」実現。地域の基幹病院である荘内病院が使命を果たす。
↓
この目指す所にむかうためのアクションプランとして考えていく基本的視点は良いと思う。ただ、鶴岡市地域医療を考えた時に、荘内病院がどうなっていく必要があるかも視点として考える必要がでてくると思う。また、使命を果たさなければならないと職員がどのくらい思っているのか、職員教育も必要ではなのかとも思っている。
- ・アクションプランの体系は、大変良くまとまっていると思う。
- ・地域医療の問題点について、住民、病院、行政が一体となって解決すべき。そのためには、それぞれが持っている情報、課題など意見を明らかにし、それぞれに伝えていく必要がある。住民へのアンケート調査により住民の意見を引き出し、病院の思いを広報、SNSなどを使って広く発信し、行政は市民講座等をセッティングしてお互いの意思疎通を図っていくことが必要と思われる。
- ・まずは病院のことを良く知ってもらうための病院見学会の開催、催事の際の住民の参加などを促すことをそのきっかけに出来ればよいと思う。「荘内病院の明日を考える会」との協働については、会を一つにするのではなく(参加者層が違うため)、それぞれの会で出た意見をもう一つの会に提示して討論する形態が良い。

◆鶴岡市の地域医療に関するアンケートへの意見

- ・アンケートを細かく記入する項目は良いと思いますが、記入する側からすると質問が多いように思う。まだ未定稿なのですが、もっと質問する項目をまとめて紙色を変えてみてはいかがでしょうか？
- ・【アンケートへのご協力のお願い】に関しては先日の会でお話ししましたが、アンケートを書く人がわかりやすく書きたくなる説明を少し入れていただきたいです。また、アンケートを行ったら、その回答が必要になると思うので、市民勉強会でその内容を報告するような旨も【アンケートへのご協力のお願い】に入れるといいかなと思いました。
- ・【エンディングノート】の項目について「医療・介護・家族への想い等をしたためるもの」と「医療や介護」という言葉を使うと、「医療を考える会」との繋がりが出ていいかなと思いました。
- ・問40「コロナ禍において」とありますが、遠方とか、身体の具合や交通手段などオンライン診療はコロナが収束しても必要と考える人がいるのかなと思います。「コロナ禍」を削除するか、「今、コロナ禍でオンライン診療が話題になっていますが、コロナ禍やそれに関わらず」にしたらどうでしょうか。
- ・アンケート集約に考察をするにあたって、高梁市のアンケートの問60・61のような「今後に期待する項目」があると、市民のニーズについて集約しやすいかと思いました。
- ・もし、このアンケートを使うのであれば、間違いあるので参考まで

問17～20	「受診した」→「入院した」	問38 9	予防
--------	---------------	-------	----
- ・在宅医療について 問 以前～現在までで・・・ 問25 誤：問34 正：問24
- ・アンケートご協力のお願いの中、「鶴岡市地域医療市民アクションプラン」作成とありますが、「～プラン」の意味を詳しく説明した方が良いかと思います。
- ・問19と問20 → 「1.受診した」ではなく「1.入院した」
- ・アンケートを依頼する目的を明確にする必要がある。
- ・問1 ～について 項目 すべてが□かこみなので、見た時に何について答えるのか分かりづらいので、整理した方がよい。
- ・質問項目に関しては（内容）は適当と思う
- ・対象者、集約人数の検討が必要
- ・回収率をあげ、効率的なデータをとるためにメンバーの所属する所へのメンバーの声掛けを行います。しかしこの方法だと偏りができる可能性もある。
- ・住民への「医療の満足度調査」に関しては、質問項目で「満足したか」「不満な点は」の選択があるが、どの程度満足できたか、どの程度不満であったか（たとえば5段階評価など）を聞くことで評価すべきだと思います。
- ・問29終末期医療についての質問1「できる限り積極的な延命処置・・・」とありますが、とてもデリカシーにかけた質問である。質問（選択）項目の見直しが必要。また、終末期医療と一概に言っても（説明はありますが）なかなか理解してもらえないのでは？「がんの終末期」と限定するならばイメージがわくとは思いますが。

◆令和3年度の鶴岡市地域医療を考える市民委員会の開催内容について

- ・これから目的にそって作って行く事と思いますが、「SNS動画」等専門的知識の持った人達が必要だと思います。
- ・来年度は、まずは市民向けの講座（パネルディスカッション形式）を開いて、今までの市民委員会の成果を発表して、住民の意識を高めることが必要か。その席上で、今後の「市民アクションプラン」の策定や「市民勉強会」の開催についてアナウンスすべき。途中経過を明らかにし、市民に期待感を持っていただくことが重要。

◆その他、鶴岡市地域医療を考える市民委員会への意見・要望等

- ・地域医療を市民委員会へのオブザーバーの方とか、市側の職員の人達からも意見が欲しい。
- ・希望です。コロナで延期になったので今年度はしかたないと思うが、次回は3月。年度末は何かと忙しい。天候も悪く、2月もやり一か月後の3月もやることはなかなか大変です。
- ・広く市民の声を聞く為にも委員の交代も必要と思う。
- ・回数を重ねメンバーの顔も分かってきた事もあり、話しやすくなってきたと思います。なるべく言いやすい、話し合いやすい雰囲気ですすめていける方法はないかと思います。
- ・今まで行ってきた「荘内病院ドクター出前講座」（各コミセンで開催）では、今後、荘内病院のことだけでなく、広く治療医療を考えていく視点で住民と共に学ぶ機会となればよいと思う。市民委員会との共同開催も視野に入れる。また、住民にプレゼンする地域医療の問題点等については、あらかじめスライド資料を作って標準化したうえで議論の望むことが必要か。

市民の皆様へ

鶴岡市の地域医療に関するアンケート

《 アンケートへのご協力をお願い 》

平素より本市保健・福祉行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
本アンケート調査は、市民の皆さまに鶴岡市の地域医療について、普段どのように
に利用し、どのように思っているかなどの率直なご意見をいただき、地域医療の現
状や課題を把握するとともに、地域医療のあるべき姿を一緒に考えていくことを目
的に実施するものです。

ご多忙のこととは存じますが、アンケート調査の趣旨をご理解いただき、回答に
ご協力くださいますよう、何卒よろしくお願いいたします。

《 ご回答にあたってのお願い 》

- ①ご回答が難しい設問については、空欄のまま進めてください。
- ②本アンケートは無記名方式です。アンケート用紙等にお名前や
ご住所をご記入いただく必要はございません。
- ③ご回答いただきました内容は、今後策定を予定しております地域医療を
守るために市民ができることを掲げた「鶴岡市地域医療市民アクションプ
ラン(仮称)」策定の基礎データとして活用させていただきます。
- ④アンケート結果については、今後開催を予定しております市民ワークシ
ョップや市民勉強会等でも報告させていただきます。

回答期限：令和 3 年 月 日 ()

アンケート調査についてのお問合せ先

鶴岡市役所 健康福祉部 地域包括ケア推進室
〒997-8601

鶴岡市馬場町9-25

電話：0235-25-2111

Fax：0235-29-5658

メール：houkatsukea@city.tsuruoka.yamagata.jp

回答者ご自身のことについて

問1 あなたの年齢を教えてください。(1つに○)

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| 1. 20～24歳 | 2. 25～29歳 | 3. 30～34歳 |
| 4. 35～39歳 | 5. 40～44歳 | 6. 45～49歳 |
| 7. 50～54歳 | 8. 55～59歳 | 9. 60～64歳 |
| 10. 65～69歳 | 11. 70～74歳 | 12. 75～79歳 |
| 13. 80歳～89歳 | 14. 90～99歳 | 15. 100歳以上 |

問2 あなたの性別を教えてください。(1つに○)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問3 あなたのお住まいの地域を教えてください。(1つに○)

- | | | | |
|----------------|------------------|---------|---------|
| 1. 旧鶴岡市1学区～6学区 | 2. 旧鶴岡市1学区～6学区以外 | | |
| 3. 藤島地域 | 4. 羽黒地域 | 5. 櫛引地域 | 6. 朝日地域 |
| 7. 温海地域 | | | |

問4 いまの地域には何年間お住まいでしょうか。(1つに○)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 5年未満 | 2. 5年以上10年未満 |
| 3. 10年以上20年未満 | 4. 20年以上30年未満 |
| 5. 30年以上40年未満 | 6. 40年以上50年未満 |
| 7. 50年以上 | |

問5 あなたの世帯での位置づけ(1.または2.に○)と、あなたを含めた世帯人数をご記入ください。

- | | | |
|--------|----------|-----------|
| 1. 世帯主 | 2. 世帯主以外 | 世帯人員 ()人 |
|--------|----------|-----------|

問6 どなたと同居していますか。(当てはまるもの全てに○)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 同居者はいない | 2. 配偶者またはそれに準ずる者 |
| 3. 子ども | 4. 孫 |
| 5. 介護が必要な、自分又は配偶者の親 | 6. 介護が不要な、自分又は配偶者の親 |
| 7. 介護が必要な、自分又は配偶者の祖父母 | |
| 8. 介護が不要な、自分又は配偶者の祖父母 | |
| 9. 兄弟・姉妹 | |
| 10. その他 () | |

問7 どの医療保険に加入していますか。(1つに○)

- | | | |
|-----------|----------|-----------|
| 1. 健康保険組合 | 2. 協会けんぽ | 3. 国民健康保険 |
| 4. 共済組合 | 5. 後期高齢者 | 6. わからない |

日常の外来受診について

問8 日常的な医療を受ける場所について、あなたの希望を教えてください。
(1つに○)

1. 自宅まで往診してほしい
2. 住み慣れた地域で受診したい
3. 市内の総合病院で受診したい
4. 市外の高度な医療が期待できる医療機関で受診したい
5. 実際の症状によってそのとき考える
6. その他 ()

問9 あなたは、最近1年間に一般外来（通常の診察時間内での診察）を受診しましたか。(1つに○)

1. 受診した

2. 受診しなかった

5ページ
問16へ

問10 問9で「1.受診した」を選んだ方にお聞きします。
最近1年間でどの地域の医療機関を最もよく利用しましたか。
(1つに○)

- | | | |
|--------|------------|--------|
| 1. 鶴岡市 | 2. 酒田市 | 3. 三川町 |
| 4. 庄内町 | 5. 遊佐町 | 6. 県内 |
| 7. 県外 | 8. その他 () | |

問11 問9で「1.受診した」を選んだ方にお聞きします。
最近1年間で最もよく利用した医療機関について、その医療機関を選んだ理由を教えてください。(3つまで○)

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1. 以前からよく知っている | 2. 評判が良いので |
| 3. 自宅に近いので | 4. 職場や学校に近いので |
| 5. 休日に対応してくれるので | 6. 早朝・夜間に対応してくれるので |
| 7. 総合病院なので | 8. かかりつけ医のいる機関なので |
| 9. 他に医療機関が無かった | 10. なんとなく |
| 11. その他 () | |

問12 問9で「1.受診した」を選んだ方にお聞きします。

最近1年間で最もよく利用した医療機関について、その医療機関への交通手段を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|----------------|------------------------|
| 1. 徒歩 | 2. 自転車 |
| 3. バイク | 4. シニアカー(電動カート) |
| 5. 自分で運転する自家用車 | 6. 家族等の運転する自家用車 |
| 7. 路線バス | 8. 生活福祉バス |
| 9. タクシー | 10. 乗合タクシー(デマンドタクシーなど) |
| 11. JR | 12. その他() |

問13 問9で「1.受診した」を選んだ方にお聞きします。

最近1年間で最もよく利用した医療機関について、自宅又は職場のうち近い方からその医療機関への所要時間を教えてください。(1つに○)

- | | | |
|---------------|---------------|----------|
| 1. 10分未満 | 2. 10分以上30分未満 | |
| 3. 30分以上1時間未満 | 4. 1時間以上 | 5. 2時間以上 |

問14 問9で「1.受診した」を選んだ方にお聞きします。

最近1年間で最もよく利用した医療機関について、**満足している点**を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 交通の便 | 2. 診察日 |
| 3. 診察時間 | 4. 待ち時間 |
| 5. 医師の知識や技術 | 6. 医師の態度 |
| 7. 看護師の対応 | 8. 病気や治療に関する説明 |
| 9. 専門の医師や医療機関への紹介 | 10. セカンドオピニオンの受けやすさ |
| 11. 自宅まで往診してくれること | 12. その他() |

※セカンドオピニオン：主治医以外の医師による、治療方針等についての助言

問15 問9で「1.受診した」を選んだ方にお聞きします。

最近1年間で最もよく利用した医療機関について、**改善してほしい点**を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 交通の便 | 2. 診察日 |
| 3. 診察時間 | 4. 待ち時間 |
| 5. 医師の知識や技術 | 6. 医師の態度 |
| 7. 看護師の対応 | 8. 病気や治療に関する説明 |
| 9. 専門の医師や医療機関への紹介 | 10. セカンドオピニオンの受けやすさ |
| 11. 自宅での往診の実施 | 12. 特にない |
| 13. その他() | |

※セカンドオピニオン：主治医以外の医師による、治療方針等についての助言

入院について

問16 あなたは、最近1年間に入院しましたか。(1つに○)

1. 入院した

2. 入院しなかった

6ページ
問21へ

問17

問16で「1. 入院した」を選んだ方にお聞きします。
どの医療機関に入院しましたか。最近1年間に数回入院された場合は、1回目の入院について記入ください。(1つに○)

- | | | |
|------------|--------------|--------------|
| 1. 荘内病院 | 2. 日本海総合病院 | 3. 鶴岡協立病院 |
| 4. 県外の医療機関 | 5. 山形県内の医療機関 | 6. 庄内地域の医療機関 |
| 7. その他 () | | |

問18

問16で「1. 入院した」を選んだ方にお聞きします。
入院した医療機関を選んだ理由は何ですか。最近1年間に数回入院された場合は、1回目の入院について記入ください。(3つまで○)

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 入院以前から通院していたので | 2. 他医療機関から紹介されたので |
| 3. 自宅が近いので | 4. 身内の家が近いので |
| 5. 勤務先・学校が近いので | 6. 救急搬送先だったので |
| 7. 医療技術の評判が良いので | 8. 病院スタッフの対応が良いので |
| 9. その他 () | |

問19

問16で「1. 入院した」を選んだ方にお聞きします。
入院した医療機関で満足した点は何ですか。最近1年間に数回入院された場合は、1回目の入院について記入ください。(3つまで○)

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 入院手続きのスムーズさ | 2. 入院の期間 |
| 3. 病気や治療についての説明 | 4. 医師の技術 |
| 5. 医師の態度 | 6. 看護師の技術 |
| 7. 看護師の態度 | 8. 専門の医師・医療機関との連携 |
| 9. セカンドオピニオンの受けやすさ | 10. 入院中の食事 |
| 11. 病室 | 12. 退院手続きのスムーズさ |
| 13. 退院後の生活や通院の支援 | 14. 特になかった |
| 15. その他 () | |

※セカンドオピニオン：主治医以外の医師による、治療方針等についての助言

問20 問16で「1. 入院した」を選んだ方にお聞きします。

入院した医療機関で不満だった点は何ですか。最近1年間に数回入院された場合は、1回目の入院について記入ください。(3つまで○)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 入院手続きのスムーズさ | 2. 入院の期間が長すぎた |
| 3. 入院の期間が短すぎた | 4. 病気や治療についての説明 |
| 5. 医師の技術 | 6. 医師の態度 |
| 7. 看護師の技術 | 8. 看護師の態度 |
| 9. 専門の医師・医療機関との連携 | 10. セカンドオピニオンの受けやすさ |
| 11. 入院中の食事 | 12. 病室 |
| 13. 退院手続きのスムーズさ | 14. 退院後の生活や通院の支援 |
| 15. 特になかった | 16. その他 () |

※セカンドオピニオン：主治医以外の医師による、治療方針等についての助言

在宅医療について

問21 自宅での介護や看病において不満を感じたこと、または、そのような状況を想定した場合に不安に感じることを教えてください。(3つまで○)

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 介護疲れや看病疲れによって、自身も体調を崩してしまうこと |
| 2. 看取りの後、精神的に不調になること |
| 3. 医師のサポートが不十分であること |
| 4. 看護師のサポートが不十分であること |
| 5. 介護職（ケアマネや介護福祉士など）のサポートが不十分であること |
| 6. 医師・看護師・介護職以外の専門職のサポートが不十分であること |
| 7. 自身の仕事が制約されることで、収入が減るなどの経済的負担が生じること |
| 8. その他 () |

問22 自宅での介護や看病において、サポートを受けられて良かった、またはサポートを受けたいものを教えてください。(2つまで○)

- | |
|-------------------------------|
| 1. 短期入院や短期入所等による、看病を休息する機会の確保 |
| 2. 自身の心のケア |
| 3. 相談できる専門医の存在 |
| 4. その他 () |

鶴岡市の医療提供体制について

問 2 3 現在の鶴岡市の医療に関する総合的な満足度を教えてください。
(1つに○) (意見…満足度を5段階で評価することが必要)

- | | | |
|----------|------------|---------|
| 1. とても満足 | 2. やや満足 | 3. やや不満 |
| 4. とても不満 | 5. どちらでもない | |

問 2 4 10年後といった近い将来の鶴岡市の医療について、あなたのお気持ちを教えてください。(1つに○)

1. 全く心配していない
2. あまり心配していない
3. どちらとも言えない
4. 不安である
5. 非常に不安である

問 2 5 問 2 4で「4. 不安である」「5. 非常に不安である」を選んだ方にお聞きします。将来の鶴岡市の医療について、何が不安ですか。
(3つまで○)

1. 医療機関への交通手段
2. 急病時にすぐ診てくれる医師がいるか
3. 重い病気をしたときに診てくれる医師がいるか
4. 近隣の医療機関が廃業・撤退してしまわないか
5. 分娩施設がないため、安心して出産ができない
6. 子どもが適切な医療を受けられるか
7. 医療従事者が高齢化しており、地域医療が維持できないのではないか
8. 自身が希望する場所で最期を迎えられないのではないか
9. はっきりとは分からないが、不安を感じる
10. その他 ()

地域医療の市民への理解と普及

問 2 6 地域医療に関するSNS等(ホームページなど)の情報を閲覧したことはありますか。(1つに○)

- | | | |
|--------------|-------|----------------|
| 1. ある | 2. ない | 3. 閲覧の仕方がわからない |
| 4. 閲覧する手段がない | | |

問27 これまで地域医療に関する研修会や講演会に参加したことはありますか。「1.ある」の場合は回数をご記入ください。(1つに○)

1.ある 2.ない 「1.ある」の場合 () 回

住み慣れた地域で自分らしく、最後まで生活し続ける

問28 お住いの地域の医療・福祉サービス事業所の所在地や機能について説明することができますか。(1つに○)

1.できる 2.ある程度できる 3.少しはできる
4.まったくできない

問29 がんの終末期医療について、あなたの希望を教えてください。(1つに○)

- 1.可能な限り積極的な治療を受けたい
- 2.痛みの緩和や精神的援助を受けながら自然な看取りをしてほしい
- 3.わからない

※「終末期医療」とは、死期が近づいたときの医療のことです。

問30 最期を迎える場所について、あなたの希望を教えてください。(1つに○)

1 病院 2.自宅
3 入所している施設 4.わからない

問31 最期を迎えるにあたって、大切だと思うことは何ですか。(1つに○)

1. 納得できる場所で最期を迎えること
2. 治療の方針について、家族とよく話し合うこと
3. 家族の肉体的・精神的な負担や不安を軽減すること
4. 家族の経済的な負担や不安を軽減すること
5. その他 (

問32 エンディングノート（遺書や遺言とは別に、最期を迎える場所や看取りに関して自分の希望を書き留めたもの）を作成したいと思いませんか。（1つに○）

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. すでに作成している | 2. 作成していないが、いずれ作成したい |
| 3. どちらともいえない | 4. 作成したいとは思わない |
| 3. エンディングノートを知らなかった | |

地域医療における荘内病院のあり方

問33 荘内病院が主催する各種催事（研修会、講演会、勉強会、患者会など）参加したことがある。「1.ある」の場合は回数をご記入ください。（1つに○）

- | | | |
|-------|-------|--------------------|
| 1. ある | 2. ない | 「1.ある」の場合（ ）回 |
|-------|-------|--------------------|

問34 荘内病院が市民に親しまれる開かれた病院を実現するため、市民として荘内病院の各種事業に協力していきたいと思いませんか。（1つに○）

- | | | |
|-------------|---------------|----------|
| 1. ぜひ協力したい | 2. 可能な限り協力したい | |
| 3. 少しは協力したい | 4. まったく協力できない | 5. わからない |

スムーズな在宅療養生活への移行

問35 あなたは、ご自身のかかりつけ医はいますか。（1つに○）

- | |
|---------------------|
| 1. いる |
| 2. いない |
| 3. 決めていないが、いると良いと思う |

問36 かかりつけ医を選ぶ理由（ポイント）は何ですか。
（3つまで○）

- 1. 自宅から近いので
- 2. 適切な検査・診療をしてもらえるので
- 3. 診療の待ち時間が短いので
- 4. 必要に応じて、高度な医療を受けられる医療機関を紹介してもらえるので
- 5. 評判が良いので
- 6. 安心・信頼できるので
- 7. 以前受診したことがあるので
- 8. なんとなく
- 9. その他（ ）

問37 問35で「1.いる」を選んだ方にお聞きします。
かかりつけ医について満足している点は何ですか。（3つまで○）

- 1. どんな病気でもまず診てくれる
- 2. 親身になって対応してくれる
- 3. 診療技術が優れている
- 4. 病気や治療についての説明が丁寧である
- 5. 自分の病歴や健康状態についてよく理解してくれている
- 6. 自分だけでなく家族の病歴や健康状態についてもよく理解してくれている
- 7. 必要に応じてすぐに専門医を紹介してくれる
- 8. 紹介先に適切に自分の診療情報を連携してくれる
- 9. 生活習慣病などの予防に向けたアドバイスをしてくれる
- 10. 定期健診や検診をしてくれる
- 11. 往診や訪問診療などの在宅医療に対応してくれる
- 12. 夜間や休日にも診察してくれる
- 13. 夜間や休日にも電話相談に対応してくれる
- 14. 最期の看取りまで対応してくれる
- 15. こころの病気の相談に乗ってくれる
- 16. 特にない

問38 問35で「1. いる」を選んだ方にお聞きします。
かかりつけ医について改善してほしい点は何ですか。(3つまで○)

1. どんな病気でもまず診てほしい
2. 親身になって対応してほしい
3. 診療技術を向上させてほしい
4. 病気や治療について丁寧に説明してほしい
5. 自分の病歴や健康状態についてもっと理解してほしい
6. 自分だけでなく家族の病歴や健康状態についてももっと理解してほしい
7. 必要に応じてすぐに専門医を紹介してほしい
8. 紹介先に適切に自分の診療情報を連携してほしい
9. 生活習慣病などの予防に向けたアドバイスをしてほしい
10. 定期健診や検診をしてほしい
11. 往診や訪問診療などの在宅医療に対応してほしい
12. 夜間や休日にも診察してほしい
13. 夜間や休日にも電話相談に対応してほしい
14. 最期の看取りまで対応してほしい
15. こころの病気の相談に乗ってほしい
16. 特にない

問39 ICTツール（Net4U、ちょうかいネット、地域連携パス等）
を知っていますか。(1つに○)

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1. 知っており、すでに利用している | 2. 知っている |
| 3. 名前だけ聞いたことがある | 4. 知らなかった |

問40 今、コロナ禍において、オンライン診療（ITを用いた遠隔診療）が
話題となっていますが、必要だと思いますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1. ぜひ必要である | 2. あれば便利である。 |
| 3. できれば直接会って診察を受けたい | 4. 必要ない |

問 4 1 鶴岡市の医療について、今後どのような対策を充実させるべきと思いますか。(1つに○)

1. かかりつけ医や診療所の機能
2. 救急医療
3. 医師・看護師の確保
4. 医療介護連携体制
5. 患者の家族に対するサポート
6. 災害医療
7. 小児医療
8. 在宅医療
9. その他 ()

問 4 2 鶴岡市の地域医療に関して何を望み、どのようなことを期待するか、ご記入ください。

アンケートは以上です。
ご協力ありがとうございました。

令和2年度
第2回

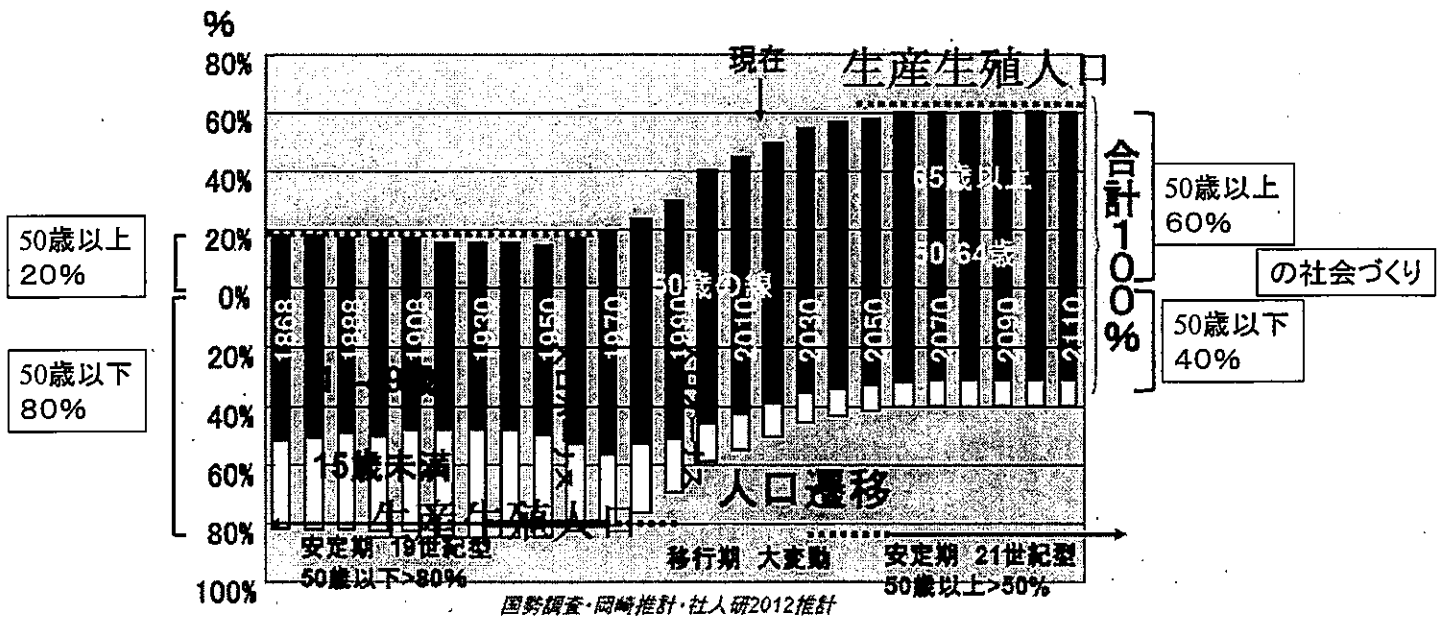
鶴岡市地域医療を考える市民委員会

～鶴岡市の医療資源～

協力 鶴岡市地域包括ケア推進室・鶴岡地区医師会・各病院
瀬尾利加子（株式会社瀬尾医療連携事務代表取締役）

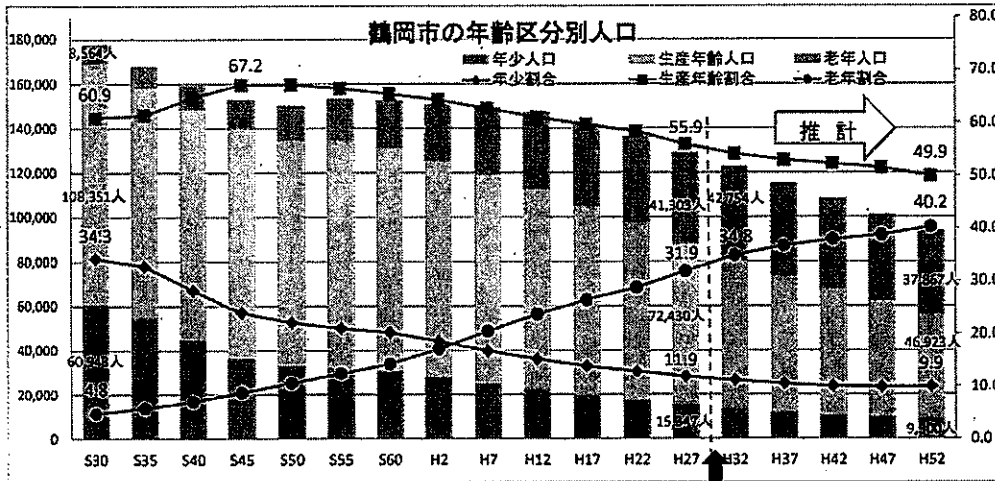
2020/11/13

人口遷移論 50歳で分割 240年間推移



1 人口 - (2)年齢区分別

- ・ 生産年齢人口(15-64歳)は、平成27年の約7万2千人から、平成52年には約4万7千人となり、25年間で約35%減少する見込み。
- ・ 老年人口(65歳以上)は、平成27年の約4万1千人から、平成32年の約4万2千人をピークとして、減少に転じることが見込まれるが、総人口に占める割合は上昇を続け、平成52年には40%を超える見込み。



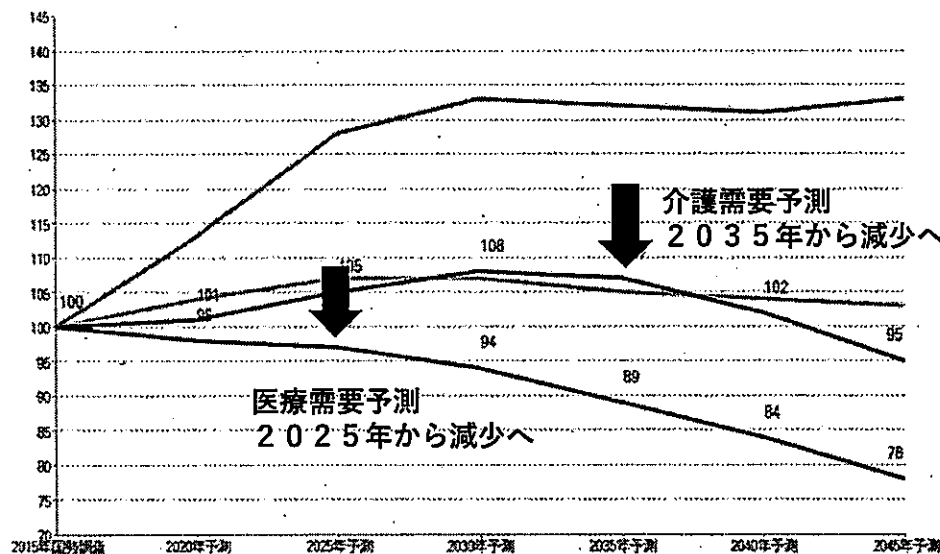
資料 国勢調査。平成32年以降は、平成22年国勢調査結果に基づく国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口(平成25年3月公表)

2020年
老年人口のピーク予想
高齢化率は上昇を続ける

2020/11/13

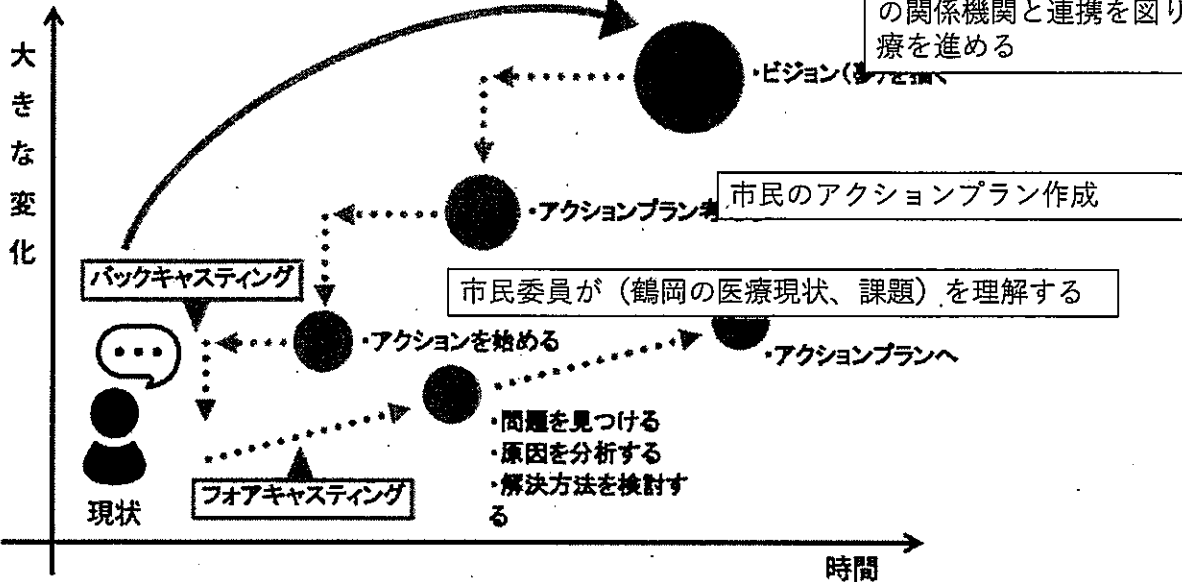
今後、鶴岡市に必要な病院機能と病床数

※ 医療介護需要予測指数 (2015年実績=100)



バックキャストの考え方

- 市民自身が自分の健康を守り、また地域医療を守り、そして医療機関と、心通い合う地域医療を実現する
- 地域の基幹病院である荘内病院が、急性期病院としての使命を果たし、他の関係機関と連携を図りながら地域医療を進める



医療の機能分化

診療所と病院では役割が違う

～平成初期
病院完結型医療

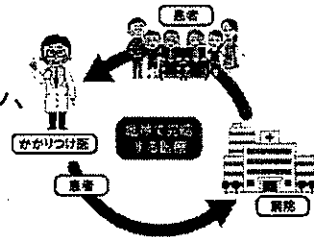
ゆりかごから墓場まで
患者さんの病気・けがの治療を最後まで病院だけで行う医療



一つの医療機関で完結しない治療

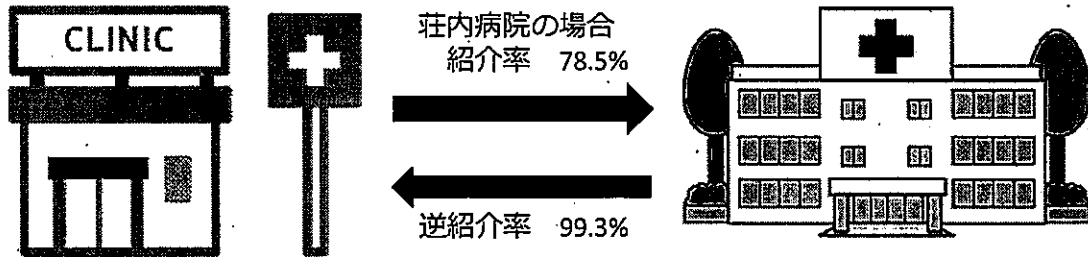
地域完結型医療

医療機関がそれぞれの得意分野を活かし、
地域全体で完結する医療



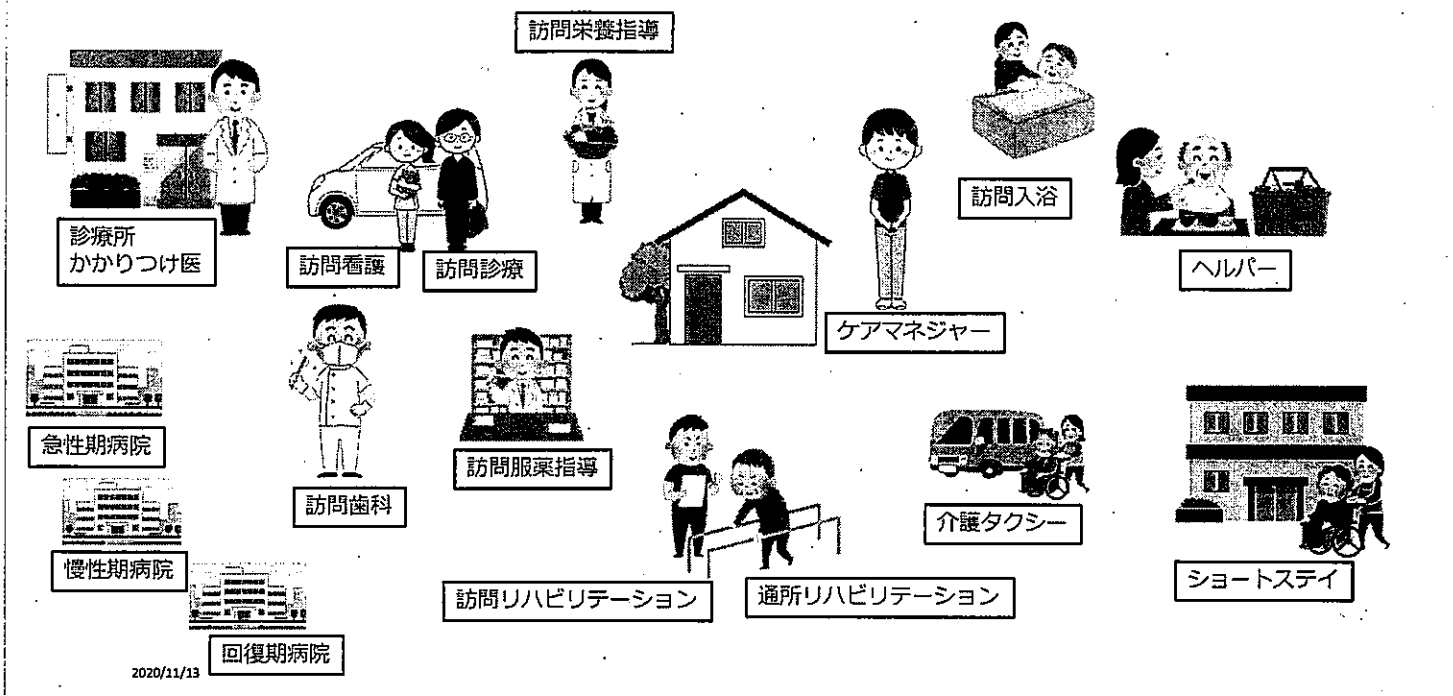
「クリニック」と「病院」の使い分け

誰もが適切な機関で適切な治療を受けられるようにするため



	クリニック (※小児科)	病院
定義	<ul style="list-style-type: none"> 有床診療所 (入院) 病床数が1～19 無床診療所 (入院) 病床を持たない 歯科診療所 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の診療科と20以上の病床を持つ医療機関のこと
役割	<ul style="list-style-type: none"> 軽い病気やケガ 症状が落ち着いているが、引き続き治療が必要な病気・けがの治療 (慢性期疾患) 	<ul style="list-style-type: none"> 突然発症し、短い経過で重症化する可能性のある診療 命にかかわる病気やケガ MRIやCTといった精密検査 手術など

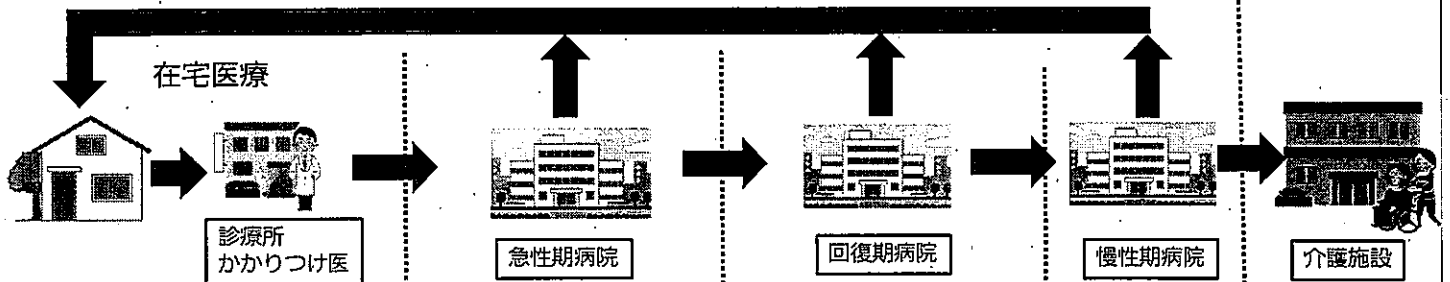
在宅医療に関わる医療機関、介護事業所



病院の医療機能の名称と内容

名称	内容
高度急性期機能	急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、 <u>診療密度が特に高い医療を提供する機能</u>
急性期機能	急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能
回復期機能	急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能 特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能（回復期リハビリテーション機能）
慢性期機能	長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能 長期にわたり療養が必要な重度な障害者（重度の意識障害者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者などを入院させる機能

基本的な入院・転院の流れ



診療所数の変化
鶴岡・三川

診療所数	
H27.10.1	109
H28.10.1	113
H29.10.1	113
H30.10.1	111
R2.3.31	111

	鶴岡市立荘内病院	鶴岡協立病院	鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院	鶴岡協立リハビリテーション病院
データの更新時	2020/4/1現在	2020/4/1現在	2020/4/1現在	2020/4/1現在
許可病床数	521床	199床	120床	156床
運用病床数	521床	140床	120床	138床
常勤医師数	62人	7人	3人	4人
看護師数	446人	122人	61人	57人
平均在院日数	13.1日	21.8日	82.1日	104日

鶴岡協立病院
(病床199床) → 運用140床 59床0

宮原病院 (一般病床 39床)
→ R2/1/1~ みやはらクリニック
(有床診療所 17床) 22床0

斎藤胃腸病院 (一般病床45床
・HCU25床)
→ H22/6/3~ 斎藤胃腸クリニック
(有床診療所 19床)
→ R2/4/1~ 無床診療所 19床0

慢性期
100床0

庄内保健所 データでみる庄内地域の健康福祉環境参考

2020/11/13

<https://www.pref.yamagata.jp/ou/kenkofukushi/090001/imuchousei/byoinchiran/R020401byoinchiran.pdf>

鶴岡地区病院情報 (山形県医療機関情報ネットワークより)

R2.10.12 地域包括ケア推進室まとめ

	鶴岡市立荘内病院	鶴岡協立病院	鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院	鶴岡協立リハビリテーション病院	三井病院	山形県立こころの医療センター
データの更新時	2020/2/21現在	2020/7/15現在	2019/11/8現在	2020/10/5現在	2019/11/12現在	2020/2/18現在
病床数	521床	199床	120床	156床	41床	214床
医師数	68人	17人	4人	5人	3人	14人
看護師数	462人	134人	60人	63人	21人	139人
1日平均外来患者数	689人	267人	0.4人	47人	108人	137人
1日平均入院患者数	425人	179人	107人	144人	15人	195人
平均在院日数	14.2日	20.7日	88.8日	99日	5.5日	117.4日

*平均在院日数以外のデータは小数点以下切り捨て

2020/11/13

データの基準日 R2年4月1日現在 (年間の実績は令和元年度の1年間)

R2年10月鶴岡市地域包括ケア推進室調べ

	鶴岡市立荘内病院	鶴岡協立病院	鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院	鶴岡協立リハビリテーション病院	三井病院	山形県立こころの医療センター
許可病床数	521床	199床	120床	156床	41床	214床
稼働病床数	521床	140床	120床	138床	41床	213床
常勤医師数 (平均年齢)	62名 (44.3歳)	7名 (59.3歳)	3名 (66.3歳)	4名 (59.8歳)	2名 (51歳)	11名 (40.5歳)
非常勤医師数 (平均年齢)	3名 (57.0歳)	24名 (48.5歳)	7名 (52.4歳)	-	3名 (45歳)	1名 (40歳)
派遣医師	97名 (42.8歳)	-	-	-	-	-
研修医数 (平均年齢)	10名 (26.9歳)	-	-	1名 (30歳)	-	1名 (28歳)
正看護師数 (保健師、助産師含)	446名	90名	47名	45名	24名	137名
准看護師数	-	32名	14名	12名	7名	-
1日平均外来患者数	693.2人	267.6人	0.6人	47.5人	105.2人	139.4人
1日平均入院患者数	392.8人	177.8人	102.1人	144.7人	23人	193.6人
平均在院日数	13.1日	21.8日	82.1日	104.0日	6日	130.9日
病床利用率 2020/11/13	76.9%	99.1%	85.1%	92.7%	56%	91.6%

データの更新時	鶴岡市立荘内病院		鶴岡協立病院		鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院		鶴岡協立リハビリテーション病院		三井病院		山形県立こころの医療センター	
	※2020/2/21現在	2020/4/1現在	※2020/7/15現在	2020/4/1現在	※2019/11/8現在	2020/4/1現在	※2020/10/5現在	2020/4/1現在	※2019/11/12現在	2020/4/1現在	※2020/2/18現在	2020/4/1現在
許可病床数	521床	521床	199床	199床	120床	120床	156床	156床	41床	41床	214床	214床
運用病床		521床	-	140床	-	120床	-	138床	-	41床	-	213床
医師数	68人	常勤62人 非常勤3人 派遣97人 研修医10人	17人	常勤7人 非常勤24人	4人	常勤3人 非常勤7人	5人	常勤4人 研修医1人	3人	常勤2人 非常勤3人	14人	常勤11人 非常勤1人 研修医1人
常勤平均年齢	-	44.3歳	-	59.3歳	-	66.3歳	-	59.8歳	-	51歳	-	40.5歳
看護師数	462人	正看護446人	134人	正看護90人 准看護32人	60人	正看護47人 准看護14人	63人	正看護45人 准看護12人	21人	正看護24人 准看護7人	139人	正看護137人
1日平均外来患者数	689人	693.2人	267人	267.6人	0.4人	0.6人	47人	47.5人	108人	105.2人	137人	139.4人
1日平均入院患者数	425人	392.8人	179人	177.8人	107人	102.1人	144人	144.7人	15人	23人	195人	193.6人
平均在院日数	14.2日	13.1日	20.7日	21.8日	88.8日	82.1日	99日	104日	5.5日	6日	117.4日	130.9日
病床利用率	-	76.9%	-	99.1%	-	85.1%	-	92.7%	-	56.0%	-	91.6%
* 平均在院日数以外のデータは小数点以下切り捨て												
※山形県立こころの医療センターネットワークより 地域包括ケア推進室より												
2020/4/1データ各病院アンケート調査結果より												
2020/11/13												

参考：病院数の変化

R2.8.28 鶴岡市地域包括ケア推進室資料より

	病院数
H21年7月1日	9
H26年7月1日	8
R元年7月1日	8
R2年6月15日	7

2020/11/13

H21年	
精神科：	県立こころの医療センター
精神科・内科	三川病院
急性期：	鶴岡市立荘内病院
急性期・慢性期：	鶴岡協立病院
慢性期：	齋藤胃腸病院
慢性期：	宮原病院
回復期：	湯田川温泉リハビリテーション病院
回復期：	鶴岡協立リハビリテーション病院
産婦人科・小児科	三井病院



R2年	
精神科：	県立こころの医療センター
精神科・内科	三川病院
急性期：	鶴岡市立荘内病院
急性期・慢性期：	鶴岡協立病院
慢性期：	齋藤胃腸病院→齋藤胃腸クリニックへ
慢性期：	宮原病院→みやはらクリニックへ
回復期：	湯田川温泉リハビリテーション病院
回復期：	鶴岡協立リハビリテーション病院
産婦人科・小児科	三井病院

参考：近年、開閉院した診療所情報

R2.8.28 鶴岡市地域包括ケア推進室資料より

閉院H30/6～

診療科	診療所数
内科	3
精神科	2
小児科	2
計	7

開院 H27/6～

診療科	診療所数
内科	4
精神科	3
耳鼻咽喉科	1
皮膚科	1
計	9

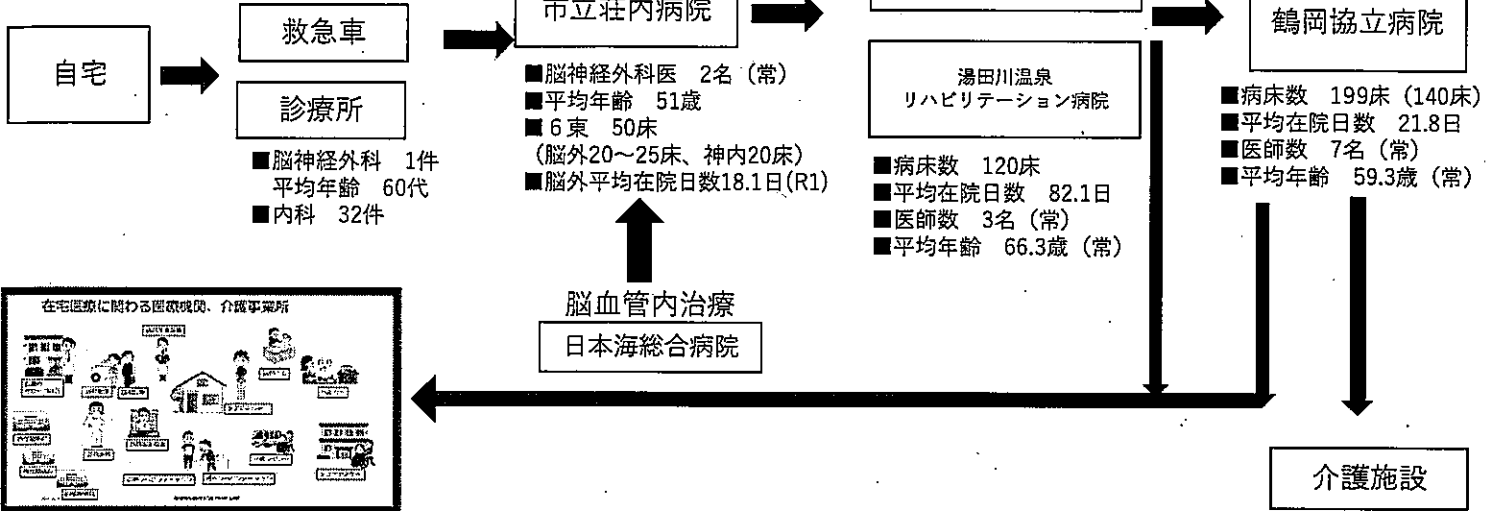
2020/11/13

脳疾患（基本的な地域医療連携）

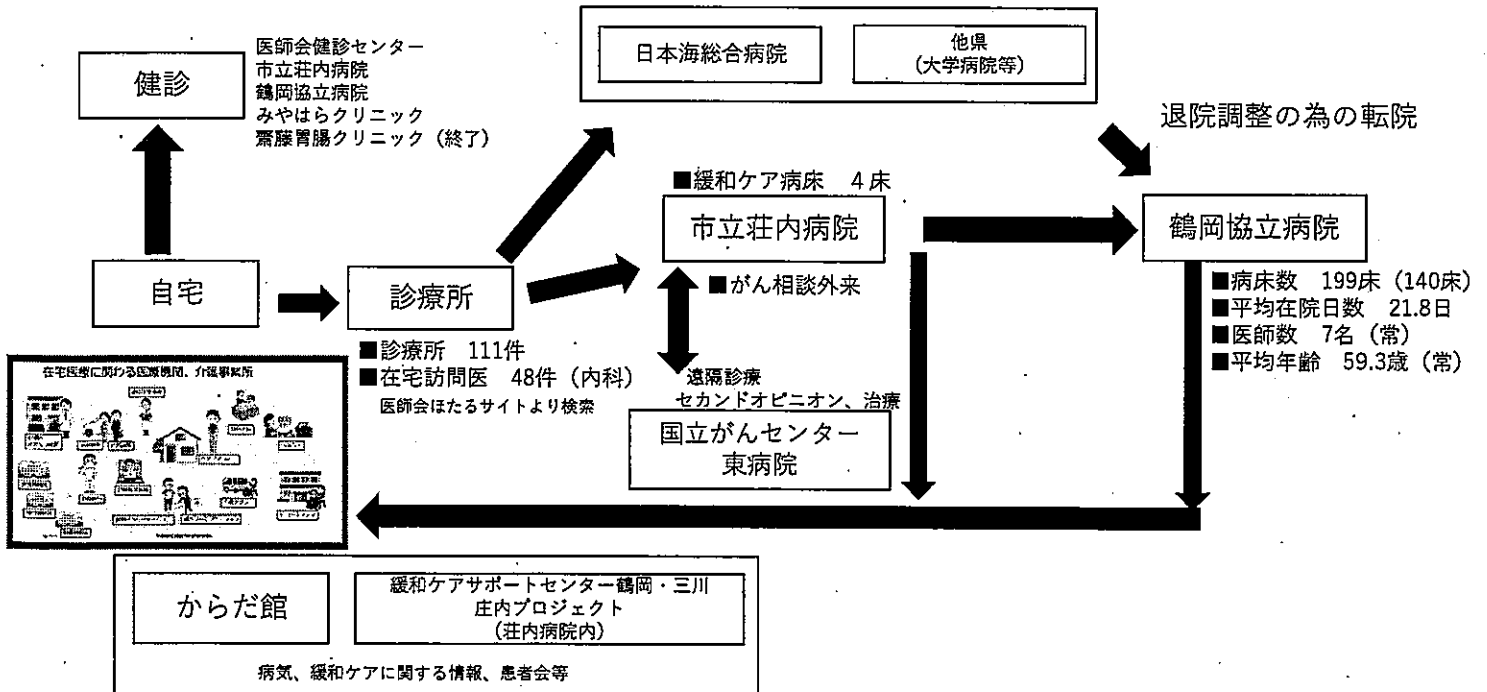
脳血管内手術件数～庄内全域～ (2018)			
合計	14	92.9%	7.1%
脳血管内手術（1カ所）	10	90.9%	9.1%
脳血管内手術 （血管内ステントを用いるもの）	3	100.0%	0.0%

■病床数 521床
■平均在院日数 14.2日
■医師数 62名（常）
■平均年齢 44.3歳（常）

■病床数 156床（138床）
■平均在院日数 104.0日
■医師数 4名（常）
■平均年齢 59.8歳（常）

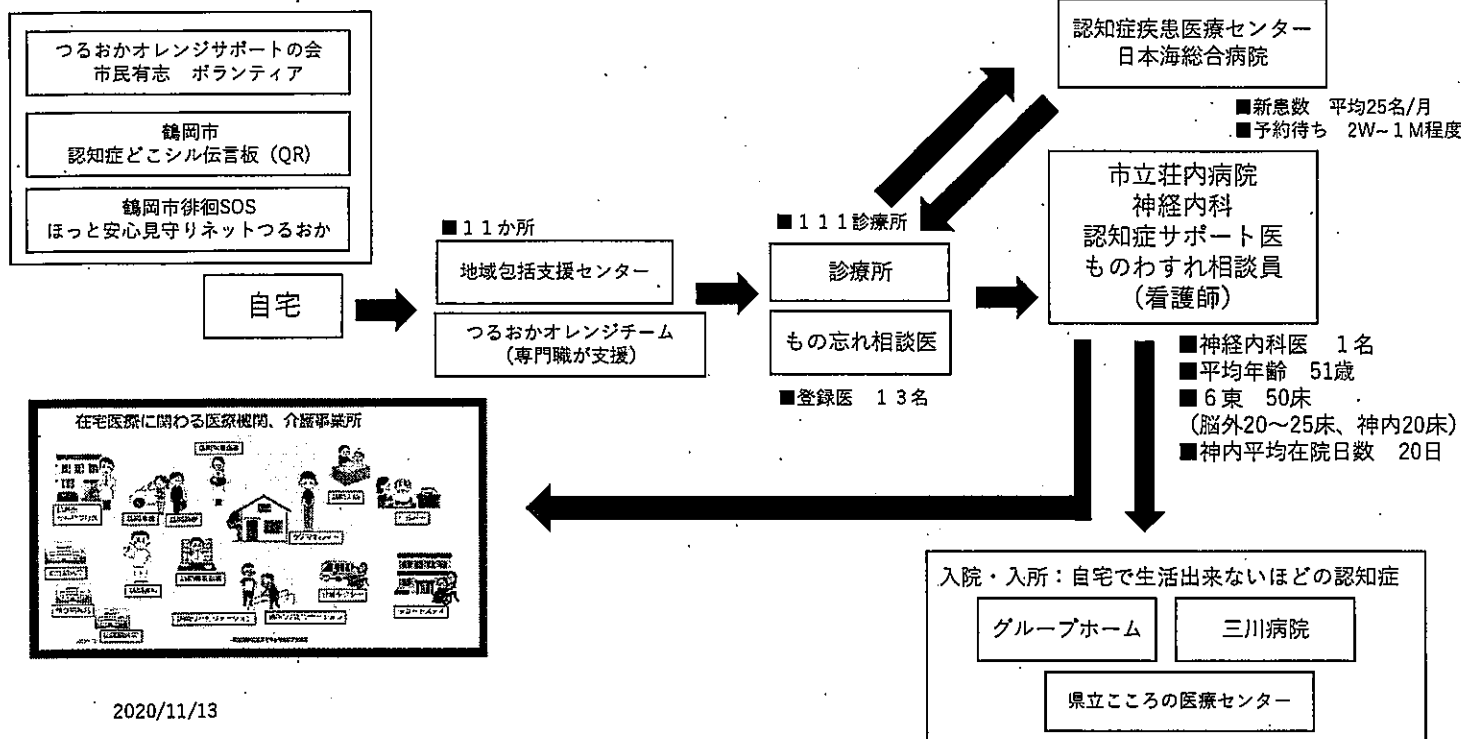


がん（基本的な地域医療連携）



認知症（基本的な地域医療連携）

南陽市 佐藤病院
新庄市 新庄明和病院
山形市 篠田総合病院



2020/11/13

参考：日本海総合病院 認知症疾患医療センター

○予約状況について

- ・ 現在、予約から初診日までの期間は2週間~1か月程
- ・ 一か月の「新患数」はおおよそ25名平均です。
- ・ 鑑別診断のためには通常2回以上受診いただくことが多い
- ・ その後の薬物調整なども含めると通院回数が複数回にわたる方も多くなる

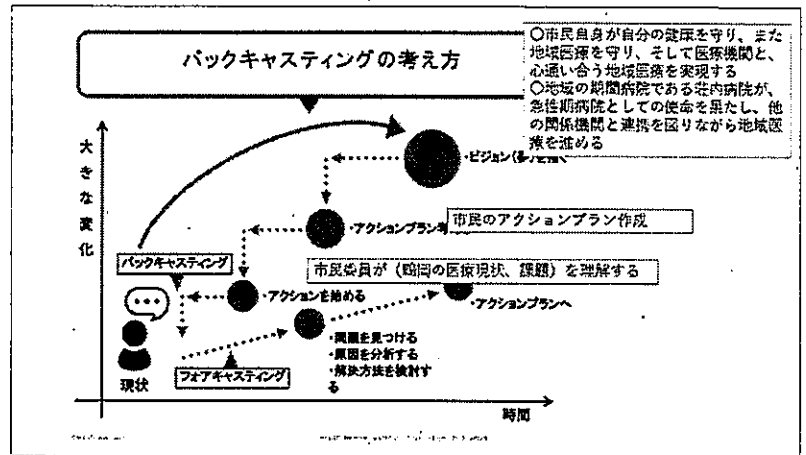
○逆紹介について

- ・ 当センターは鑑別診断後・薬物調整等治療方針決定後の逆紹介（紹介元への紹介）を基本
- ・ 若年性の方や特異な症状の方などは、当院へ定期通院となる場合がある
- ・ ほか、医師が必要と判断する場合、ご本人やご家族の希望などで逆紹介に加え、当センターで認知機能検査フォローのための予約となる方もおられる

2020/11/13

鶴岡市地域医療を考える市民委員（会）として 本日の協議

- ① 地域医療について市民周知
や広報の手法を考える
- ② 地域医療に関するアンケート
やデータ収集を実施する
には



2020/11/13

【75分】 グループワークの流れ

【5分】 担当したいテーマに分かれる（テーブル移動・配置）

※オブザーバーも分かれてグループに入る

- ①市民周知・広報グループ
- ②アンケート・データ収集グループ

【45分】 グループで話し合い

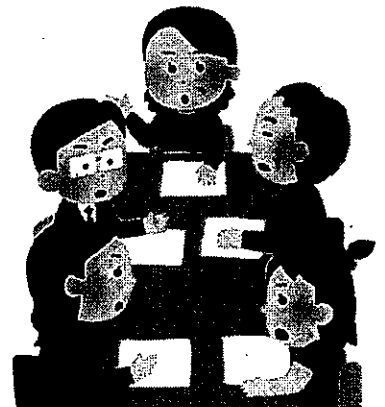
■市民委員に考えてもらうこと

テーマの内容を**実行に移す具体的な方法**について

- ① いつ、だれが、だれに、なにを、どこで、どのように
- ② 市との役割分担

【25分】 全体共有・意見交換

※今後、地域医療市民アクションプランにも反映



2020/11/13

からだ館

3つの活動を中心に、年齢を重ねても楽しく幸せに暮らせる地域を目指しています。
一人一人が健幸に！ 地域が元気に！

調べる
探す

がんを中心に病気の治療や予防、健康維持に関する書籍約1500冊を所蔵。



料理や絵本も多数あります。インターネットによる情報探しでもきサポートが必要な場合はスタッフが対応しています。

楽しく学ぶ

楽しく学ばせよう！ 半学半遊 がん患者の救えよう 加齢定健任原大生



画面に映りピース

出会う
分かち合う

・テーマは、高血圧、糖尿病、心の健康など様々。2018年度からは「がんピアサポーター養成講座」を継続開催。2020年はコロナ禍に対応するためオンラインの勉強会も開催。※開催の告知は「からだ館通信」やHP「広報つるおか」等

仲間と出会い・交流・支え合い がん患者サロン にこにこ倶楽部



にこにこ倶楽部の様子

参加者の声

- ・ここに行けば仲間に会える。一人じゃないと思えて心強い。
- ・皆さんと同じ病気だと思つと、何でも話せる気がする。

開催日 毎月第1金曜日
10:00～11:00(暫定)
会場 鶴岡タウンキャンパス3階
対象者 がん経験者、そのご家族
参加費 お一人100円
※予約不要

様々な取り組み

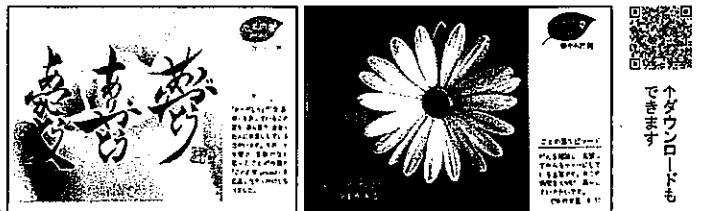
「健幸かるた」プロジェクト

からだ館に関わる方々と、幸せになるコツや工夫を盛り込み、かるたの読み札・絵札を手作りしました。出来上がったかるたは地域の100歳体操通いの場等で活用していただいています。



「ことの葉」プロジェクト

がんサロンの参加者を中心に、大切にしている言葉を集めました。集められた言葉から22の言葉を選びエピソードを添えポストカードを作成。からだ館、病院等に展示しています。想いのこもった言葉の発信で人と地域を元気にしていきます。

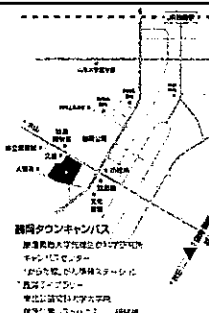
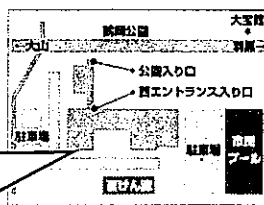


からだ館の場所

百けん濠側の西エントランス

鶴岡公園側のエントランス

鶴岡タウンキャンパス(馬場町)の図書館「致道ライブラリー」内にあります。



〒997-0035
鶴岡市馬場町14-1
Tel: 0235-29-0806
Fax: 0235-29-0807
<http://karadakan.jp>





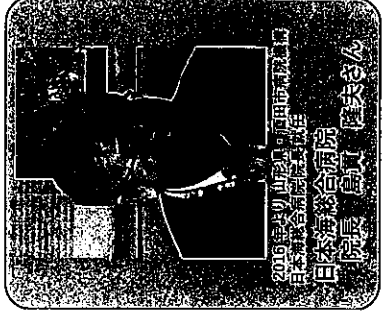
からだ館通信

60号

からだ館
からだ館

鹿嶋医療大学 先端生命科学研究所
〒997-0035 山形県鹿嶋市黒島町14-1
鶴岡タウンセンター3階 3号室
TEL 0235-25-0806
FAX 0235-29-0807

2020年7月1日発行
バックナンバーは <http://karadakan.jp> で検索いただけます。



コロナ禍の報道から日々最新鋭で奮闘する医療従事者のみなさんへ、感謝の念に堪えません。一方で自分たちが暮らす地域の医療の脆弱さを知り不安な思いを抱えた方もいらしたのではないのでしょうか。さらに従来から問題視されてきた、人口減少や医師偏在、財政問題など深刻化しています。

そこで今回から始まる新企画「ともに考えよう 地域医療みらい図」では庄内地域の各病院の院車より地域医療の在り方等についてお話を伺い病院や地域医療の実情について学んでいきます。初回は日本海総合病院の島置隆夫院長にお話を聞きました。*インタビューは7月1日に行いました。

ともに考えよう

地域医療みらい図

自分のために 未来のために

日本海総合病院の役割を教えてください。

(島置) 私たちの病院は、庄内全地域の患者さんの三次救急(生命に危険が及ぶような重症・重篤患者)に対応する救急医療を担っています。又、心筋梗塞、大動脈解離といった命に係わる病気の治療など「高度急性期」と言われる医療を提供しています。南庄内の急性期病院である庄内病院とは役割を分担しながらしっかりと連携しています。

高度な医療を提供するために

「高度急性期」ということは庄内病院より高度な医療ということですか？

(島置) 「高度」といってもそれはどつちが上とか下とかいう意味ではなく、機能や役割を分担しているということです。例えば脳外科の手術については庄内病院が充実していて件数も多いですし、南庄内の救急医療の大部分は庄内病院が担っています。

そのため、どちらかが倒れたら両方が倒れるという関係なのです。その関係性は庄内病院だけでなく地域の病院、診療所なども同じです。それぞれの特色を生かして、連携していきたい、そうする必要がありますと考えています。

庄内地域すべての医療機関で役割分担する必要があるのですか？

(島置) はい。日本海病院の外來患者は一日平均1450人、多い時だと1600人も来ています。実はあまり外來の患者さんが多いと本来の目的である高度な手術やカテーテル検査などに支障をきたすこともあります。この病院の本來の役割が果たせなくなってしまうのです。外來患者さんが多いと待ち時間が長くなってしまうのも問題です。

だから隣町の方や治療を終えた人は他の医療機関に行ってしまうことが、日本海病院が高度急性期の医療を提供し続けるために大切なことですね。

(島置) 患者さんの声として日本海病院での治療が終わり他の病院を紹介されると「見放された」と感じることもあるようですが、決してそうではありません。機能を分担してしっかりと連携していくのです。そのため私たちは今「二人主治医体制」に力を入れています。



3月17日、日本海総合病院にて。聞き手は、左手より、黄藤彰利、瀧尾利加子、秋山美紀(1) 鹿嶋医療大学からだ館 2) (株) 海陽医療研究所

がんピアサポーター養成講座

ピアサポーター養成講座は2018年10月に始まり、これまでに第一期全5回、第二期基礎編2回を開催しました。第一期修了者、そして第二期の基礎編を修了された方と一緒に、今後開催する「ステップアップ編」の企画を考えたいです。



たのびたい会中!

がんになったと知ったとき、先々を考えて心が辛いとき、治療や副作用で体が辛いとき、思いを吐き出せる人がそばにいることは、とても大きな支えとなります。体験者としてそこにいること自体が誰かの助けになります。この地域のピアサポーターさんたちの輪が、少しずつ大きくなっています。

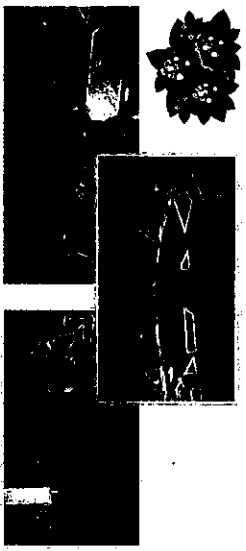
お知らせ

第三期基礎編は、来年度新たに開講予定です。ピアサポーターの活動に興味・関心のある方はぜひご参加ください。

特別企画「健康部会」

毎月第一金曜日の午前中に開催している「がん」を経験された方、そのご家族のためのサロン

3月から開催を見合わせていましたが、6月5日は感染拡大予防の対策をして開催しました。参加者は21名。密閉・密着・密接を避け3つの部屋に分かれての開催となりましたが、再会を喜び、マスク越しの会話が弾んでいました。「直接会えるって嬉しい」と実感されていたようでした。



今後の開催日 7/3 8/7 9/4
会場 鶴岡タウンキャンパス 3階
会費 お一人 100円
※おつりのないようにご準備ください。
～*～*～ お願い ～*～*～

- ◆ 各自飲み物をご持参ください
- ◆ 朝、検温をお願いいたします
- ◆ (37.5℃以上)の場合は参加ご遠慮ください
- ★ 状況が変化した場合、変更の可能性があり、ご不明な点やお問い合わせは「からだ館」まで
電話番号 0235-29-0806

庄内病院で活動している 《庄内健康ケアアソシエーション》 お知らせ

いつも気持ちを一人で抱えていませんか。お話しするだけで心が軽くなるかもしれません。

会場 1階西病棟院内病院内
日時 2020年7月31日(水) 13時～16時
対象者 妻帯者、未婚者、女性、高齢者
対象病 がんの患者さんやそのご家族

お申し込みは「がんピアサポーター養成講座」受付室から電話開催「がんピアサポーター養成講座」受付室
※お申し込みは、お電話またはメールにてお願いいたします。
お問い合わせ先 庄内病院地域医療推進室
TEL 0235-26-5180
(担当：佐々木、青原)

編集後記

美母に「やめてねがオンライン」参加者の前向きな様子を伝えたいところ思いがけず刺激を受けた。そこでなんと、入ったばかりの給付金の使い道にPC購入話が持ち上がっていました。以前からSNSを利用して見たいものがあったらしい。家族のサポートもいただいたまま検討中。前向きな気持ちには伝染するのね。いくつになってもチャレンジしたいことがある、楽しいことがあるっていいね。(SA)

「二人主治医体制を患者さんが安心な仕組みだと感じるためには、医療者同士の情報共有が大事になりますね。」

（島寛）医療連携のための情報ネットワークにははずと力を入れてきました。庄内には「ちよかいネット」という地域で安全に医療情報を共有できる仕組みがあります。日本海病院の患者さんの電子カルテの情報も、庄内で連携をしているところの医療機関でも必要な時に見ることが出来ます。

「庄内の地域医療で、今もこの課題に感じていることは何ですか？」

（島寛）人口の大幅減少に対応して、先手を打つことでしょうか。2040年には庄内地域の人口は18万19万になります。今から12年前の2008年に酒田市立病院と県立日本海病院が統合したことを不満に思っていた市民もいたようですが、統合して資源を集中させることにより、高度急性期医療機関として、医師や看護師が集まる環境になりました。2つの病院のままでは、生き残ることはできなかったでしょう。人口規模に合わせて、その時から300床を削減しましたが、それでも現在の病床の稼働率は8割を切っています。もっと病床を減らしていかないと、経営が成り立たないという厳しい局面になっています。

患者さんと信頼を深めるために
「患者さんや住民と信頼関係を築くため、どんな工夫をしていますか？」

（島寛）信頼のためには納得できるような説明に十分な時間をかけることが大事で、そこを医師だけでなく多職種で対応したいと考えました。そこで新たに「入退院支援センター」を作り、今年2月に稼働を始めました。患者さん入院前から退院後まで、病院が関わりを持つことで、スムーズに切れ目なく治療やケアが継続すること、そして時間をかけて説明をすることで理解が深まるようにすることが目的です。入退院支援センターは、地域連携室のさらなる強化であり、地域の医療や介護との橋渡し役になると考えています。ほかにも、がん患者の就労支援のためにハローワークが週一回、病院に来て相談を受けることになったんです。今後も色々考えてやっています。

開き手のプロファイル

齊藤 彩
からだ健康スタッフ
社会福祉士

院長さんや医師さんを通じて、地域医療体制の情報を発信し、ここで働くことを考えています。

瀧尾 利加子
(株)酒田医療連携推進事務所
酒田地域医療委員 委員 委員 委員

2015年まで酒田市内の病院に勤務した後、高齢社会から起こる医療課題の解決策に取り組むため起業。みどりまちづくり文庫を運営。

秋山 美紀
からだ健康大学 教授
酒田地域医療委員 コーディネーター
市民委員会 中央社会保険医療協議会 会 会 会 会

15年にわたり庄内地域の医療をウォッチングする傍ら、国の医療政策にも関わる。

「コロナ経験後に考えること」

「コロナにより庄内地域の医療体制が変化しました。そこで島寛先生に再度メッセージいただきました。コロナにより医療を取り巻く環境が変化しました。そこで島寛先生に再度メッセージいただきました。それを踏まえて考えるべきことは、今後、やってくるであろう第二波、第三波に備えること、立派な体制の確立とその充実、庄内地域での感染情報共有体制の構築が不可欠です。庄内では、感染が落ち着いているものの、時期こそ、地域の連携が大切だ。感染予防を徹底して、医療施設、保健所、酒田地区医師会、リハビリショップのもと、庄内地域での円滑な連携、協働体制が構築できたら、それは極めて大事なことで、防の取り組みが肝要であり、申請の経験は必ずや将来の地域医療構想に活かされるものと確信しています。」

「庄内の地域医療情報にコロナが与える影響は、コロナが新型コロナウイルスが終息した後のポスト・コロナで、医療のみならず様々な分野で大きな変革がおこるものと予想されています。一方、庄内の地域医療構想に、庄内地域は幸いにも地域連携の先進地域です。ポストコロナと人口減少の観点から、周辺地域を含めた庄内地域全体の、将来に医療提供体制の構築を急務と考え、ゆかなければなりません。」

1+1を、3や10に 「オール庄内」でいきたい

「庄内地域の将来のために、考えていることがありましたら教えてください。」

（島寛）庄内は一つの共同体です。北と南と1+1は2じゃなく、3や10にしていきたい。医療だけでなく、まちづくり、教育、農業、交通インフラ、これはみんなは力をあわせていくところですね。

「私の案は、酒田と鶴岡を結ぶLRT(次世代型路面電車)を走らせること。そして鶴岡はちょうど真ん中にあたる空港のそばに移転させる。そうすれば、鶴岡からも酒田からも、お年寄りも車を転々しなくても行き来できるでしょう。山屋倉庫や土門拳記念館、鶴岡公園や、スライムテラスの前も通るようにして...」

僕は量産出身ですが、鶴岡も酒田も魅力的な地域であり両方楽しんでいます。環境もおいしい食事はおいしいし歴史や文化の街を残していきたい。お酒もおいしいよね。そうそう、新しくワイナリーもできるのも楽しみです。庄内は一つ、「オール庄内」で行きたいですね。

「コロナ禍で記事の掲載が延期となったため、コロナ経験後の思いをメッセージとしていただきました。ありがとうございます。今回は酒田病院院長の堀内隆三先生に話を伺います。どうぞ楽しみに」



からだ健康×地域連携プロジェクト×社会人大学院生の合同企画 「やてみねが オンライン」始動

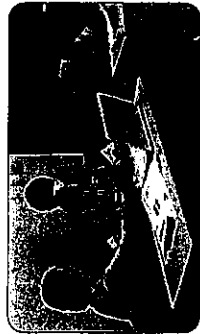
オンライン上でも人と繋がりがいや喜びを体験、地域をどんどん元気にする活動がスタートしました！

6月5日(金) がん患者サロン【にここに倶楽部】の有志の参加者と見学者合わせて9名で「やてみねがオンライン」がスタート。



当初コロナ禍で患者サロンも中止となり、不安を抱いていた参加者もいなくなり、なかなか解決できない状況となっていました。そこでその状況を慶應義塾大学先端生命科学研究所の地域連携プロジェクトと社会人大学院生4名※が立ち上がり、からだ健康の患者サロンをオンラインでサポートする合同の活動が始まりました。

今後はオンライン上のミニミニ患者サロンを目指して勉強していきます。オンラインのスキルが高い社会人大学院生とより楽しく賢く生きるスキルが高い参加者の化学反応に乞うご期待！



参加者の声

- ・楽しくて次回が待ち遠しい。好奇心に年齢は関係ないと思った
- ・高齢者や障害者こそオンラインを学んだ方がいいと感じた
- ・PCもないので今回は見学だけと思っていましたが、みんなの楽しそうな様子に自分もやってみてみたい気持ちになった。

※ 社会人大学院生は企業から派遣されて鶴岡に移住し、慶應義塾大学先端生命科学研究所で大学院生として学びながら、鶴岡や庄内地域をフィールドに様々な研究活動を行っています。今回は、高木慶太/損保ジャパン 木村剛徳/第一生命 三島拓也/明治安田生命



からだ館通信

61号

からだ館

慶應義塾大学 先端生命科学研究所
〒997-0035 山形県鶴岡市尾山町14-1
鶴岡タウンセンター 敷設ライブラリー内
TEL 0235-29-0806
FAX 0235-29-0807

2020年8月31日発行
http://karadakan.jp/で読めます。

バックナンバーは



※この号は6月30日に行いました。

前回から始まった「ともに考えよう 地域医療みらい図 陸奥行しんどう」では私たちが暮らす地域の医療の現状について学んでいます。毎回、地域の各病院の院長より病院の紹介、地域医療の在り方等についてお話を伺います。今回は鶴岡協立病院、堀内隆三院長にお聞きしました。

「鶴岡協立病院の役割を教えてください。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

「(堀内) 急性期医療(※1)に特化する病院ではなく、高齢者を中心として急性期から慢性期まで全体を診ています。」

地域医療みらい図

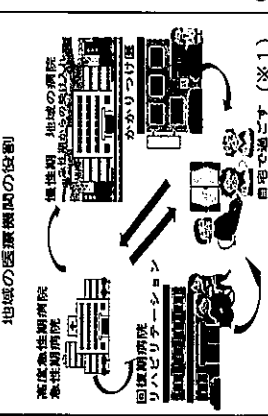
自分のために 未来のために
医療生協やまがたには 鶴岡協立病院と鶴岡リハビリ病院 クリニックそして介護施設があります。全体として保健予防活動からリハビリ、医療介護を提供するのが私たち医療生協です。

地域包括ケアの観点として

(堀内) 例えば地域に暮らす高齢者が病気になる、私たちの病院を訪れたらいいです。病状によっては、院内で紹介し、そこで急性慢性期医療を受けたいだくともあります。多くは私たちの病院で急性慢性期治療を終えその後、自宅等に帰り、通所リハビリ、通所介護のサービス等を利用しながら、在宅を過ごす。この一連の地域包括ケアシステム(※2)を支える拠点が鶴岡協立病院の立ち位置です。

また、私たちの役割は社会的弱者として最後の砦となる医療機関であることで、無償で診療にも取り組んでいます。差額ベッド代金とりません。もったいない制度にしてほしいといわれても特別な設備はありませんが、個室であろうが大抵患者さんが同じです。

地域医療マメ知識



支えあいの精神が我々の魂

(堀内) これは、医療生協という組織でみんなが出資して建てた病院です。会員は4万人あります。支部があって週ごとに活動しています。そこには職員さん同士が話をしたり、運動をしたりする関係者づくり活動も行っています。組合員さんの中には自発的に気になって人を連れ出して生語をしてくれる人もいます。支えあいの精神がそこにあるのです。それが我々の魂です。支えあいの精神の上に医療があると思っています。そこが私たちの病院としての特色であり、強みです。

次ページに続く

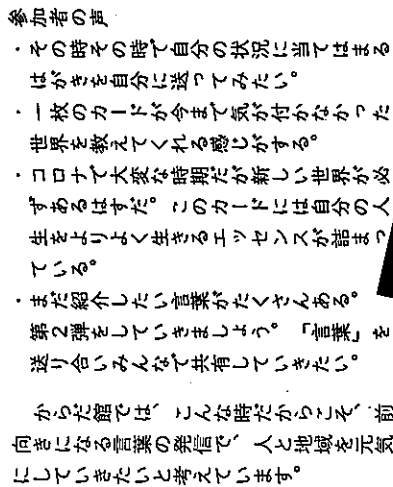
区分	医療機能の内容(定義)
急性期医療	急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療態様が特に高い医療を提供する機能
急性期	急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能
回復期	急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能 特に、急性期を経過した患者の重症度や大動脈疾患等の患者に対し、ADL(日常生活動作)の向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能(回復期リハビリテーション)
慢性期	長期にわたる療養が必要となる患者を入院させる機能 -長期にわたる療養が必要となる重症度の患者を入院させる機能 -ロアワー層又は軽症患者等を入院させる機能



6月30日、協立病院にて。聞き手は、左手より、瀬尾利加子(1)、齊藤彩羽(後)、瀬尾隆三院長(前) 2) 慶應義塾大学からだ館

「からだ館」が開催しているがん患者サロン「ここに言葉部」の中で、つらい時期にいる参加者が他の参加者の言葉に励まされて笑顔を取り戻したり、元気になる様子を見れば目のあたりにします。そのことをきっかけに、人を前向きにする言葉を紹介したいと考えた企画が「この葉のプロジェクト」です。がん患者サロンの参加者を中心に、生きる力をもらった言葉、大切にしている言葉などを集め、その中から22の「言葉」を選び、ポストカードを作りました。8月18日には、ポストカード完成発表会を開催しました。

参加者の声
・その時その時で自分の状況に当てはまるはがきを自分に送ってみたい。
・一枚のカードが今まで気が付かなかった世界を教えてくれる感じがする。
・コロナで大変な時期だが新しい世界が必要はあるはずだ。このカードには自分の人生をよりよく生きるエッセンスが詰まっている。
・まだ紹介したい言葉がたくさんある。第2弾をしていきましょう。「言葉」を送り合いみんなで共有していきたい。
からだ館では、こんな時だからこそ、前向きになる言葉の発信で、人と地域を元気にしていきたいと考えています。



ポストカードはからだ館のホームページでご覧いただけます。ダウンロードもできます。

がんを経験された方・そのご家族が、経験・想いを分かち合うサロン
今後の開催日 9/4 10/2 11/6 12/4 (毎月1回第一金曜日開催)
時間 10:00~11:00
会場 鶴岡タウンセンター3階
会費 お一人 1,000円
※おつりのないようにご準備ください。
~*~* 8月 参加者の話題より *~*~*
・転移したのが信頼できる医療者がいてくれる、これからも相談しながら治療していきたい。
・定期健診で腫瘍マーカーが上がった。心配でたまらない。
・病後は鬱になったが、みんなに助けられて鬱を抜けられた。現在は「今を生きる」だけを考え生きている。
・夫をがんで亡くしたけれど、夫を大切に育ててきたが、ここでみんなの話を聞いて心が救われた。

編集後記
コロナウイルス感染予防のため、3月、4月、5月からからだ館のほとんどのスタッフがストップしました。その後状況に応じて、いままでとはやり方を変えながら活動を再開させてきました。その時改めて気が付いたのが、人と人が関わりを持つことがどれほど重要かということ。からだ館の活動は参加は参加して下さる皆さんがいてこそなんだという、当たり前のことが、とても意味を持つのだと知ることができました。

参加者から頂いた作品。頒布されます。☺

からだ館×地域連携プロジェクト×社会人大学院生の合同企画

「やてみねが オンライン」 オンラインで人と繋がり、生きがいや喜びを体験。地域を元気にしていこう!

からだ館が2009年から運営しているがん患者サロンにここに倶楽部。毎月1回第一金曜日に開催していましたが2020年3月、4月、5月、はコロナ禍でサロンが中止となり、不安を抱いていた参加者もいらつしました。そこでその状況をなんとか解決できないか考えた慶應義塾大学先端生命科学研究所の地域連携プロジェクトと社会人大学院生*が立ち上がり、からだ館の患者サロンをオンラインでサポートする合同の活動を行いました。

*社会人大学院生は企業から派遣されて福岡に移住し、慶應義塾大学先端生命科学研究所で大学院生として学びながら、福岡や庄内地域をフィールドに様々な研究活動をしています。

～6月5日～説明会

会場：鶴岡タウンキャンパス
参加者：9名(うち見学者2名)
社会人大学院生：4名

参加者ひとり一人に合わせた操作方法を解説。大学院生の紹介動画を視聴する宿題も出されました

～7月3日～オンライン体験

タ方のテレビ番組で今回の様子が見たお孫さんから「おはあちゃん、すごい！」と称賛された参加者もいらつしました。



～7月7,8日～接続テスト

ご自宅のパソコンから参加される方へ事前テスト。不具合や不安な点を解消して本番に備えました。

～7月10日～オンライン患者サロン開催

会場：鶴岡タウンキャンパス
本番の当日、自宅からの参加者3名、鶴岡タウンキャンパスから4名と社会人大学院生、からだ館スタッフ計11名のオンラインが開通。長く会えずにいた、からだ館リーダー秋山さんのいる東京と、福岡市、酒田市で顔合わせることができました。

参加者の声

- > 今悩んでいるが人の仲間と繋がりたいので、今後もオンラインを活用していきたい。
- > 参加者について、みんないいものだと感じた。自分より年上の人もちゃんとできていて。まずはあの場に参加すること自体が素晴らしいと思う。
- > 自分の世界が広がった。世界に向けて色々なことができると思うとうれしい。
- > 苦手意識があったのが一度体験できたので、次にやるときは抵抗感はなくなった。
- > 若い人とのコミュニケーションに引け目を感じていたが、丁寧に教えて頂いたことも嬉しかった。

社会人大学院生の声

- > 参加者がとても意欲的で刺激を受けた。地域のために何ができるか個人で考えていたのが組織として取り組むことにより幅が広がる。
 - > 最新のことにチャレンジする歳の重ね方をしていきたい。
 - > 特別なことをやっていたわけではないのにこんなに喜んでもらえるとは思わなかった。喜んでもらえてうれしい。
 - > 2回目で、早くもオンラインに慣れてきている様子に感心した。
- 今回のメンバーは、
高木 穂太 / 確保シヤパン
龍野 弘毅 / 第一生命
重藤 幸太 / 損保ジャパン
前橋 約敷 / 損保ジャパン
- 木村 剛徳 / 第一生命
三島 拓也 / 明治安田生命
重藤 幸太 / 損保ジャパン

堀内院長のプロフィール

私は長野県出身で、実家は父が中学の教師、母が農家をしていました。3人兄弟の末っ子です。

私が医師を目指したきっかけは2つあります。一つは姉が医療系の大学に進んだこと。もう一つは長野県で地域医療の先駆者として活動されていた故郷月後一先生に感銘を受けたことです。自分も無医村の医師になりたいと思いました。

大学は山形大学医学部です。卒業後は若月先生のいる佐久総合病院に行くか山形に残るか悩まれました。しかしより医療体制が整っていない山形で医療をしていくことに決めました。ちょうどその頃、地域住民がお金を出して



堀内先生の故郷 長野県青木村の風景

つくる協立病院のことを知りまして。そこでこの病院を大きくしたいと考え入局したのです。

コロナ禍から 本当の幸福を問はず

私は、このコロナ禍を境に、人間の幸福感が変わっていくことを望んでいます。今までの幸福感はお金に支配された価値観が中心でしたよね。他との比較の中に幸福を求めていた。しかしそうじゃなくて、人々が他人との支えあいの中に幸福を感じるような価値観を転換してほしいと考えています。

都会崇拜ではなく地方に目を向けること。地方にいても仕事はできるのがわかってきましたよね。もう一度、地方に社会を形成し、幸せづくりをみんながやっつけていければいいのではないのでしょうか。

1 庄内の地域医療で課題と感じていることは何ですか？

(堀内) この地域の看護師と医師の不足です。病院の医師の確保も考えていきますが、深刻なのは看護師不足です。

鶴岡協立病院でも昨年からどうして看護師が募集できず今年もベットの数を33床減らしました。以前は280床あったベッド数は今は140床です。どんどん規模を縮小しても、それを維持するのが難しくなっている現状です。また看護師不足が直接の原因ではありませんが、地域には病院をやるめてクリニックに移した医療機関もあります。そのため、慢性期の患者さんが入院できるベッド数はさらに減少しています。高齢者の多いこの地域にとって本当に深刻な問題です。

実は山形県の看護師の養成数は全国でも2つくらいに低いです。

庄内地域には酒田市立酒田看護専門学校、鶴岡市立庄内看護専門学校があります。が、残念ながら定員割れを起こしている学校も。さらに医師会立の准看護師学校も3年後の閉校が検討されています。教育の問題も併せて考えていかないとダメです。

1 庄内の将来のために考えていることがありましたら教えてください。

(堀内) 地域に看護大学を作ることが私の願いです。

庄内地域には、より専門性の高い大学、看護大学を求めて、他県や内陸へ進学している優秀な学生も多います。そこで地域に看護の大学を作りその学生を庄内地域で養成できないかと考えています。

地域で支えあう医療体制に

(堀内) もうひとつは、地域の医療体制をそれぞれの役割、ポジションを鮮明にし、地域全体を支え合うシステムをつくらせていきたいと思います。私たちの病院の異なるべき役割は、地域急診センターです。これに専念することで地域に貢献できればと考えています。

長い看護大学があれば、周辺の地域や隣県からも高度な看護士がため、学生が庄内に通学するかもしれません。

人口減少、出生率も減っている現状では大学の設立は難しいことは十分認識しています。しかし何も手を打たなければ庄内の医療はどうなるのか。医療と教育はセットです。どちらもなくなるとその地域は立ち行かなくなってしまうと思います。

なんとしてもチャレンジしたいです。

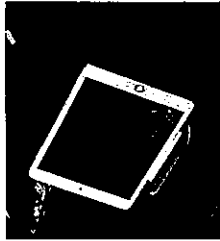
(堀内) または、庄戸と庄内が、生徒組織の発祥の地です。学校総長も鶴岡が発祥の地です。

庄内は伝統的に支えあいの精神、感動するべき歴史がある地域です。

地域を支えあいを大事にして他の病院と連携していくことで素晴らしい地域医療ができると思っています。

あとがき
インタビュアーの秋山さんは、東京からオンラインで参加しました。

堀内隆三先生ありがとうございました。次回もどうぞお楽しみに。



院員インタビューを通じて地域医療体制からさらさらまで医療のことを考えていきたいと思います。

鶴岡市地域医療推進委員会委員長
藤田 和加子 (株) 酒田医療機器事務代表、酒田社会から起こる医療課題の解決策に
2015年まで鶴岡市内の病院に勤務後、酒田社会から起こる医療課題の解決策に
取り組むための起業。みどりまち文庫を運営。
秋山 隆三 中央社会保険医療協議会公益委員等、約15年にわたる庄内地域の医療をウォッチする傍ら、国の医療政策にも関わる。





からだ館通信

2020年10月30日発行
バックナンバーは <https://karadakan.jp> でお調べいただけます。

医療従事者 先端生命科学研究所
からだ館
〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町14-1
鶴岡タウンキャンパス 教習室1Fラビー内
TEL 02355-29-0806
FAX 02355-29-0807



※10月31日は9月26日に行われました。



ともに考えよう

地域医療みらい図

自分のために 未来のために

からだ館通信60号から始めた「ともに考えよう地域医療みらい図」院長「リーインタビユ」では、私たちが暮らす庄内地域の医療の現状について、学んでいます。院長インタビュー第一回は日本海総合病院の島賢隆院長に、第二回は鶴岡協立病院の堀内隆三院長に、それぞれの院長の視点から見た地域医療の現状や目指す姿についてお話をうかがいました。三回目の今回は、鶴岡市庄内病院の鈴木隆院長に伺いました。

庄内病院の役割を教えてください

(鈴木) 庄内病院は庄内地域の急性期病院です。地域全体を診る基幹病院として地域に根ざした医療を提供する病院です。急性期ですと手術、がん治療を中心としています。さらに急を要する治療、心筋梗塞、心不全、呼吸器疾患なども庄内地域の医療機関の中で中核的な役割を果たしています。また、庄内地域で唯一の、地域周産期母子医療センター(※1)、新生児集中治療室(NICU)を完備し、安心安全なお産の実現を目指しています。庄内病院には、NICUのベッドが6床、集中ケアを脱した児の回復治療室(GCU)のベッドが6床あります。24時間小児科医が常勤し、いち早く赤ちゃんの状態に対応しています。

(※1) 地域周産期母子医療センター

母体・胎児及び新生児において、リスクの高い妊娠に対する医療や、高度な新生児医療の実現を図ることを目的とした施設

医師不足と言われてますが現状はいかがですか

(鈴木) 庄内病院の令和2年4月1日時点の医師数は72名です。全国の500床以上の公立、公的病院の平均医師数に対して20名程度少ない厳しい現状です。そのため、日本海総合病院、山形大学、鶴岡地区医師会に医師の派遣をお願いしています。

ただ、去年は医師が不在だった呼吸器科に、今年度から一人専門医が加わりました。そうした良いことも広報していきたいと考えています。

危機感を共有し、機能の集約へ

(鈴木) 医師不足は地域全体として深刻で、小児科、産科も減っています。先日、鶴岡協立病院と、三井病院、庄内病院で「庄内内の周産期、小児医療を考える会」を立ち上げました。現在、この地域で分娩を行っているのは上記の三病院だけです。このうち三井病院、鶴岡協立病院は産科医が一人で大変過酷な状況です。庄内病院の医師数は三名ですが、産科ばかりではなく婦人科医療にも対応しているため足りない状況です。そこで、集約化を考えて話し合いを始めたところです。ただ単に一つに

(※2) 急性期

悪性腫瘍とは急性期医療後に引き続き入院治療を要する状態



9月25日、鶴岡タウンキャンパスにて、左から齊藤彰、潮尾利加子

なるのではなく、それぞれの病院の強みを生かし、機能の分散と集約を考えた対応することが大切で、今後さらに連携が必要だと考えています。本来、庄内病院は急性期の医療を提供する役割を担っています。しかし、今後は亜急性期(※2)の患者さんも増えていくことから、その対応もしなければなりません。手術後の患者さんを診る他の病院、慢性期病院との連携も必要です。地域に必要な機能を維持するために、病院同士危機感を共有していかなければならないと考えています。

次ページに続く

マルシェ開催決定!

が、車椅子利用、ここに倶楽部有志がマルシェを開催します。皆さん、張り切って準備中です。素敵な、楽しい、おいしい商品が並びます。ぜひ、お立ち寄りください。

日時: 11月25日(水) 15:00~18:00
会場: 鶴岡市本町丁目7-45 まちづくりスタジオ 鶴岡Dada

取込の一部は若いがん患者支援に利用されます

小笠地区保健推進員の皆さん 9/11

今年度初の見学会です。この活動内容と健康かるた、この葉アロジエクトを紹介しました。館内に展示してある「この葉」オリジナルポスターカードをご覧いただき、早速アンケートに答えてカードを選んでいたいただきました。

見学会開催

酒田市移住希望者 10/13

酒田市へ移住希望の方が見学されました。からだ館の取り組みに興味を持ってくださいました。活動内容を説明した後、意見交換を行いました。移住した後やりたいことともしつかり見据えていらっしゃり、私達にも刺激になりました。

絵手紙教室

9月のここに倶楽部で、参加者の作品を見て「私もやってみよう」と言ったことがきっかけになって、「からだ館絵手紙教室」が実現しました! 講師は、同じここに倶楽部の参加者です。

がんを体験された方・そのご家族が、経験・想いを分かち合うサロン

今後の開催日 11/6 12/4 1/8
毎月/回第一金曜日開催予定
時間: 10:00~11:00
会場: 鶴岡タウンキャンパス3階
会費: お一人 100円

~*~*~* お願い ~*~*~*
◆ 各自飲みものをご持参下さい
◆ マスクを着用ください
◆ おつりのないようご準備ください

◆ 大閉催変更の場合もあります。
◆ ご不明な点やお問い合わせは「からだ館」まで電話番号、02355-29-0806

始めは不安そうなた皆さんでしたが、作りたいものが決まったら突然アイツチが。工布を貼った写真で色を塗ったり。「工作を返して学校へ来い!」と、無心に手を取り返る瞬間も、会場が静まり返ります。出来上がった作品を皆さんで披露しあっています。大満足!

「今度の教室はいつ?」と、今から次回が楽しみです。お待ちきれない様子でした。

10月2日、爽やかな秋晴れのここに倶楽部。

参加者さん持参のゴカリナの演奏「ハッピーバースデー」に合わせ、皆さん水でできた、手のひらに取るまるく小さい小さな楽器で、温かい音色に、皆さん笑顔がほげほげしました。

日々暮らして送る中、様々な思いはありますが、皆さんに共有してもらえ温かいひとときです。

編集後記

笑りの秋ですね。うちの畑では、いも類が収穫時期を迎えています。形もでこぼこ、大ききも様々ですが、自分たちで作ったものは特別にいい気がするから不思議ですね。今回、うちのじゃがいもをここに倶楽部有志開催のマルシェに出させてもらいます。(紙面「マルシェ開催決定」の記事をご覧ください)売れるかな? どうか楽しませてもらいたいです。他に、ネックレス、洋服など素敵なものがいっぱい並びます。ぜひ、いらしててください。

国立がん研究センター東病院と連携し「がん相談外来」

庄内病院と国立がん研究センター東病院は今年、地域医療の貢献を目的とした連携協定を締結し、いよいよ11月より毎月「がん相談外来」が開設されます。鈴木院長に概要をご案内いただきました。

庄内病院に通院している患者さんが、がんの治療や副作用についての不安等を「国立がん研究センター東病院」の医師と直接会って相談できる外来です。院内のセカンドオピニオンの役割で、費用は再診料のみとなります。

受診を希望する場合は、庄内病院の主治医か、看護士に伝えてください。但し、がん相談外来を受診できるのは、庄内病院の医師が担当しているがん患者さんとそのご家族です。ご家族みなさんと相談内容を共有していただきます。

受診後、主治医と患者さんと再度治療方針について検討することになります。がん相談外来を受診しても主治医との良好な関係は変わりないので心配はいりません。

将来的には遠隔診療システムを使ったセカンドオピニオンなど、患者さんへ負担の少ない、医療を提供していきたいと考えています。

さらに医師や看護士など医療スタッフの人事交流を積極的に行い、診療のレベルアップを図っていきます。この連携によってより良い地域医療への貢献ができればと考えています。



がん相談外来
スタート

11月19日より開始
11月19日より開始
11月19日より開始

11月19日より開始
11月19日より開始
11月19日より開始

「地域医療を持続させるため」

私たちが住民にできることはあります

(鈴木) 病院を受診する場合、紹介状が必要な仕組みを理解いただきたいと思います。すべての診療科に十分なメンバーがあるわけではないのです。決して住民の皆さんに意地悪しているわけではありません。通常、医師は午前中、外来診療をします。外来に時間が掛かり過ぎると、午後の手術や検査に差しさわりのある場合もでてきます。医師が時間的に余裕をもって診療させていたために、「何となく調子が悪いから病院に行く」のではなく、まずはかかりつけ医を受診してもらいたいです。かかりつけ医の役割を理解していただくことが、地域医療を守っていくために大変重要なことと考えています。

「この10年、20年の地域や医療の変化を庄内病院はどう感じていますか」

(鈴木) 約30年前に私が来た当時の庄内病院は、古いけれど医師も今よりずっと多く、何でもできる基幹病院として、良い医療を提供しているという自信がありました。

2008年より、この地域では緩和ケアを地域全体に広げていくための「庄内プロジェクト」が始まりました。そこで地域住民に調査をして、結果に愕然としました。病院に対して信頼、安心感を感じている患者さんがあまり多くなかった。むしろ批判的な気持ちを持つていたことが明らかになりました。この結果を謙虚



インタビューの一人、秋山美紀はオンラインで参加しました。

に受け止め、そこから「なんとかしなければならぬ」と医療者の意識が変わったと思います。庄内プロジェクトをきっかけに、地域全体で連携が良くなり、医療者の困難感も少なくなり、患者さんが安心して退院できるようになったと感じています。当院でも手術をすだけではなく、患者さんが自宅に帰った後の生活やその人全体を診る視点を持つ医療者が増えたと思います。

医療者も住民も変化している

また住民にも変化を感じています。以前は庄内人はおとなしいと感じていましたが、今は違います。地域の皆さんが医師や研修医と語り合う「車座トーク」では、皆さんが堂々と病院について要望や意見を言う姿に驚かされます。問題解決のために一丸となれる人たちがたくさんいます。ありがたいですね。

次ページに続く

患者に真心を届け、地域に愛される病院でありたい

(鈴木) 医療者は人として基本的なところを身に付ける必要があります。患者ファーストは当たり前で、患者さんへ真心を届けなければなりません。

さらに職員や病院に関わる方々にも気持ちよく働いてもらいたい。それがなければ患者さんへ良い医療を提供できません。自分の組織を誇り、家族にも自慢できるような病院でなければ地域医療は良くなりません。

庄内病院は公立病院です、市民に見放

されたらおしまいです。市民の要望をお聞きし、市民目線で一緒に病院を作っていくと考えています。これから地域の病院として頑張っていきます。

最後に、コロナ第二波については、病院だけでなく鶴岡市、鶴岡地区医師会その他、様々な機関と連携し対策をしています。第二波の反省も含め知恵を出し合い対応していきます。患者さんには少しご不便をおかけしますが、引き続きご協力をお願いいたします。

(了)



鈴木聡先生ありがとうございました！
聞き手は、秋山美紀(中央上の画面内) 齊藤彰(中央下) 尾瀬利加子(右)

聞き手のプロフィール
齊藤彰 からだの館スタッフ、社会福祉士、院長インタビューを通じて地域医療体制の情報を発信し、ここで暮らす皆で医療のことを考えていきたいと思います。
尾瀬利加子 (特)酒医医療連携推進所代表、鶴岡市地域医療を考える委員会委員。2015年まで鶴岡市内の病院に勤務後、高野社から赴任。この医療課題の解決策に取り組むための起業。みどりまち文庫を運営。
秋山美紀 からだの館リハビリテーション課長、鶴岡市地域医療を考える市民委員会コーディネーター、中央社会保険医療協議会公益委員等。約15年にわたり庄内地域の医療をウォッチする傍ら、国の医療政策にも関わる。



このころのセルフレアセミナー開催
このころの SOSに気づいていますか?

「仕事や病気、様々な人間関係、コロナ禍不安や「なんでもなく日々モヤモヤする」など悩みを抱えている人も多いのではないのでしょうか。このセミナーではこのころのセルフレアについて学んでいきます。自分と向き合ってみませんか。」

Vol.1 11月21日(土) 13:30~15:30 (開場/13:00)

「自分のところとの向き合い方を考えてみましょう」

Vol.2 11月29日(日) 10:00~12:00 (開場/9:30)

「自分のところを守るセルフケアと傾聴、~カウンセリングガイドとウィズコロナ~」

Vol.3 12月13日(日) 13:30~15:30 (開場/13:00)

ワークショップ(会場参加のみ) 「体験で学ぶ、自分のタイプとカウンセリングガイド」

参加料 無料
定員 各20名(リポート参加除く)
会場 各回共通 鶴岡市先端研究産業支援センター 大会場 鶴岡市寛岸寺字水上246-2

※一回だけの参加も可能です
【お申込み・お問い合わせ】11月1日から

庄内ころ塾 TEL 090-6689-2050
email shonai.kokorojyuku@gmail.com

詳細はからだの館HPからご覧ください
http://karadaken.jp/



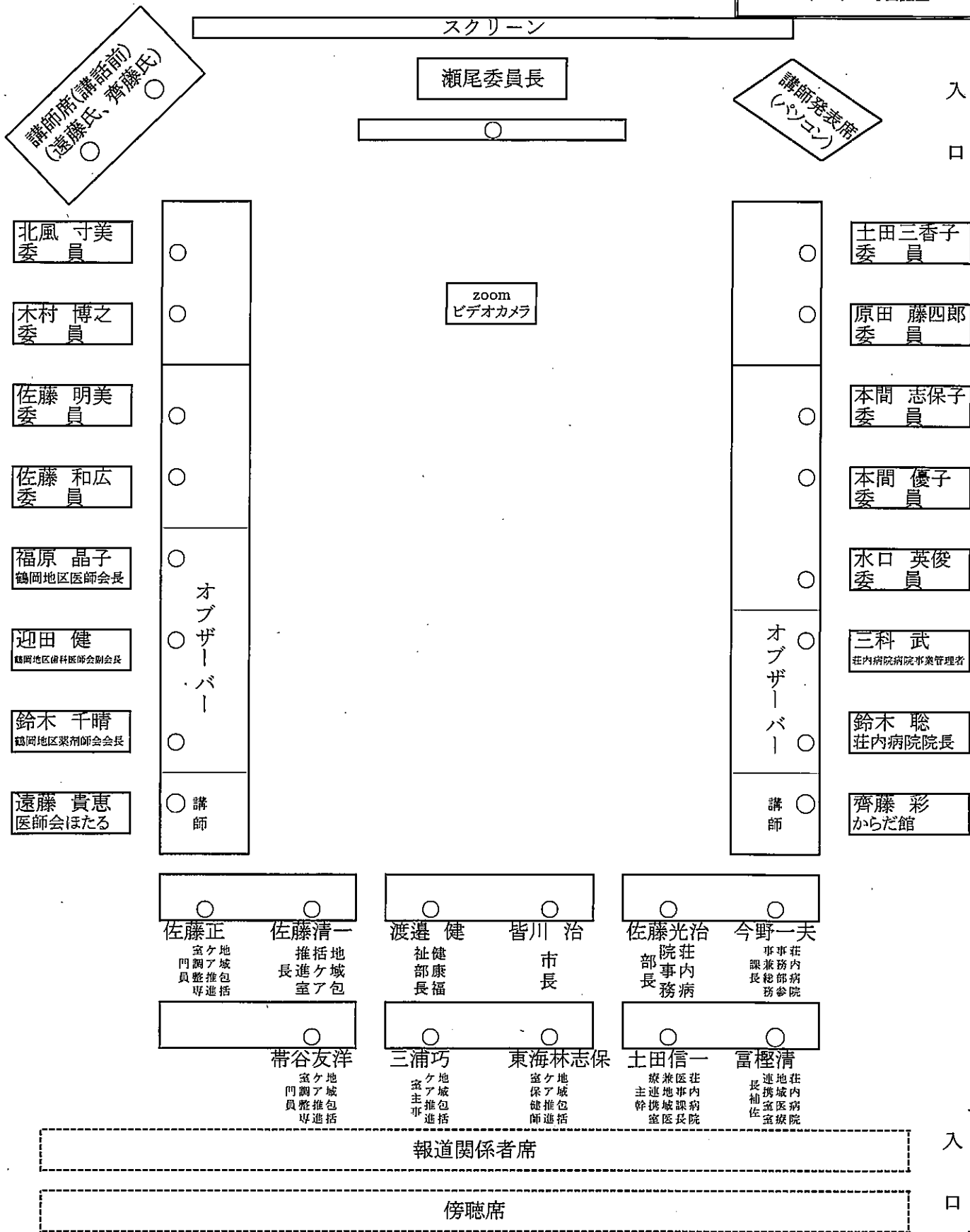
Facebook
メイン
主催 庄内ころ塾(鶴岡市・酒田市ボランティア登録団体)
共催 鷹巣塾大学先端生命科学研究所からた館
後援 鶴岡市、酒田市、ヒューマン・メタガローム、テクノロジーズ(株)

第4回 鶴岡市地域医療を考える市民委員会

日時: 令和3年3月25日(木)
13:30~15:30
場所: 鶴岡市役所 別棟2号館
21、22、23号会議室

オンライン出席
秋山美紀 コーディネーター

座席表



◆これまでの「鶴岡市地域医療を考える市民委員会」議論の整理表

当日配布資料1

目指す姿	基本的な視点	市民アクション	目標	取組実施の素案
1	地域医療の市民への理解と普及	市民アンケートを実施し、市民ニーズを把握する	・市民が地域医療に期待することを把握し、地域医療の課題の共有や解決策を検討する	・地域医療に関するアンケートやデータ収集を行い、市民の理解度や満足度について確認する
		市民による地域医療に関する積極的な情報発信	・広報誌を柔らかい内容にし、親しみやすくする ・若い世代にも地域医療への理解を広める	・既存の地域医療関連の広報誌にキャラクターやマスコットを入れ、一目でわかるようにする ・SNS等で情報発信する ・地域の保健衛生推進員や民生委員より地域医療について周知してもらう
2		地域医療に関する「市民勉強会」や「市民公開ワークショップ」の開催	・市民自身が自分の健康を守ることができるよう地域医療に関する知識を身につける ・地域において、地域医療について普及できる人材を育成する	・各町内会、自治会などの組織単位で、地域医療に関する市民勉強会を開催する ・市全体で、市民委員会での地域医療に関する取組について発表する「市民公開ワークショップ」を開催する
3	地域 の 基 幹 病 院 で あ る 荘 内 病 院 が 使 命 を 果 た す	住み慣れた地域で最後まで生活し続ける 訪問診療、訪問看護、介護サービス等、在宅療養支援体制の把握	・自分が住んでいる地域の医療・福祉サービスを知り、安心して暮らすことができる	・地域で開催される市民勉強会のなかで、医療・福祉資源マップ等を作成する
4		ACP(人生会議)の市民の理解と普及	・人生の最終段階の医療やケアについて、自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと繰り返し話し合い、共有する	・地域で開催される市民勉強会のなかで、エンディングノートを普及する
5	地域医療における荘内病院のあり方	患者満足度の向上や開かれた荘内病院の実現	・荘内病院の強みを生かし、安心して受診できるような環境を整えることで、患者満足度の向上を図る	・救急医療、急性期医療を支えている荘内病院について、市民レベルで理解を深め、より良い在り方について考え、そのアイデアを荘内病院へ提言し、一緒に考える
6		市民団体による荘内病院応援団の結成	・荘内病院市民応援団を結成する(市民に親しまれる開かれた病院を実現するため、市民の声を活かしながら病院事業を推進していく)	・荘内病院の現状をよく理解してもらうとともに、荘内病院で開催される各種事業に参画する
7	スムーズな在宅療養生活への移行	入院時、退院時の「入退院支援ルール」の理解と普及	・実際の入退院に関する基本的なルールを理解し、在宅療養が必要時に備える ・かかりつけ医制度の理解と普及を図る	・地域で開催される市民勉強会のなかで、かかりつけ医制度や入退院ルールについて理解する
8		市民のICTツール(Net4U、地域連携バス、ちようかいネット等)の理解	・ちようかいネット・Net4U・地域連携バス等の内容(メリット等)を理解し、活用について検討する	・地域で開催される市民勉強会のなかで、ICTツールについて勉強する

地域医療市民アクションプランの策定

地域医療市民勉強会のテーマ

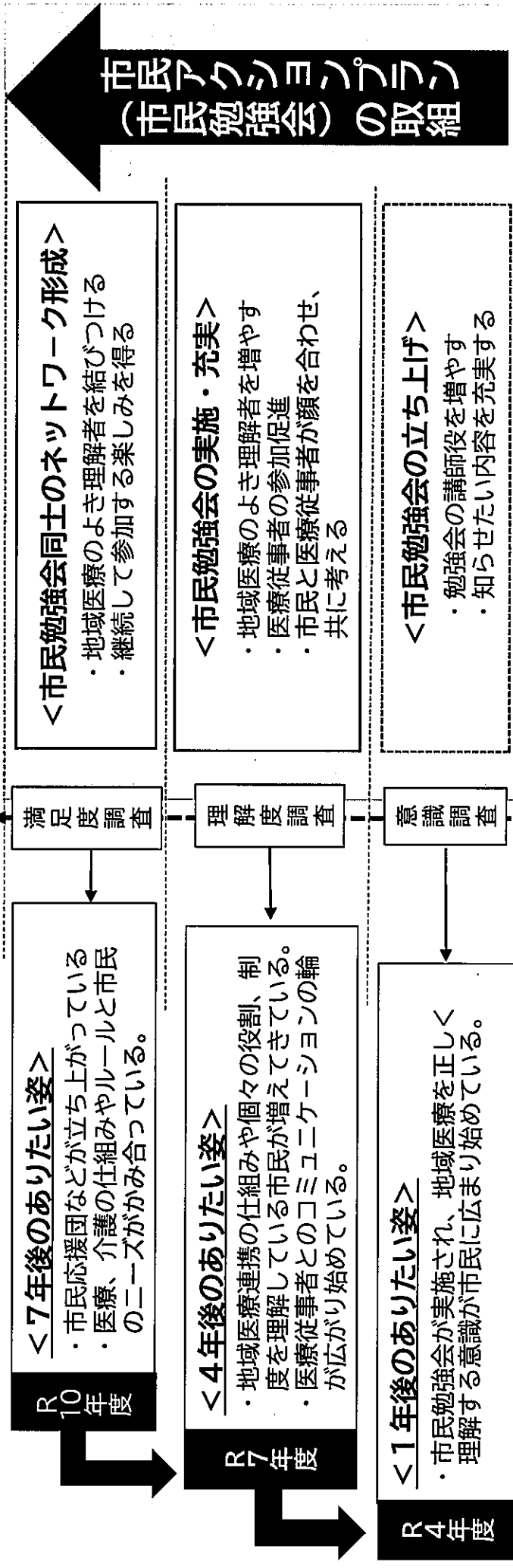
・・・10年後の鶴岡市の“地域医療の未来像”・・・

＜こころ通い合う地域医療＞

市民と医療者が信頼し合い、適切な医療が受けられている

＜地域の基幹病院たる荘内病院＞

荘内病院が市民に信頼され、その使命を果たしている



鶴岡市地域医療市民アクションプランの策定

R3年度

R2元～2年度